

《専門教育科目》

科目名	音楽 I			科目ナンバリング	C3012SYH067
担当者氏名	高井 翔海, 田村 幸造, 津田 安紀子, 藤田 浩恵, 小林 未季, 佐藤 裕子, 森本 満穂子, 山口 雅敏, 一ノ瀬 夏美, 宮内			担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 1 年 ・ II 期

《授業の概要》

個人レッスンと集団授業を45分ずつ行います。個人レッスンでは、グレード表に基づきながら、ピアノ演奏の基礎力を高め、レパートリーを増やします。集団授業では、読譜力を身につけるための音楽理論を学びます。

《授業外学習》

○ピアノ曲、弾き歌い曲ともに、各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。
○音楽理論については、前回の授業内容を復習し、理解した上で、受講するようにすること。

《テキスト》

『保育者を目指すあなたへ動画で楽々マスター！コードで弾けるピアノ伴奏法』教育芸術社

《学習状況・理解度の確認》

集団授業内での小テスト、毎回の個人レッスン及び発表の中で理解度を確認します。

《参考図書》

『標準バイエルピアノ教則本』『ブルグミュラー25の練習曲集』全音楽譜出版社 (S、Aコース全員)
『教職課程のための大学ピアノ教本』教育芸術社 (Bコース全)

《備考》

Music I
ICT双方向型授業です。
授業内でペアワークを行い、小テストの内容などの復習を行います。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	保育現場の子どもたちの様子をイメージしながら、演奏することができる。
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	読譜力とピアノ演奏の技術力を身につけ、バイエルなどの基礎的なソロ曲を演奏することができる。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	レッスンや発表での自分の演奏を振り返り、技能や表現力をさらに高められるよう工夫して練習できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	0
小テスト	30
レポート	0
発表・実技	40
授業内課題	0
その他 (平常点)	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業概要及びピアノグレード制の説明、音楽理論に関する理解度の確認、担当教員との顔合わせ	ピアノの練習	120
2	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論①	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】コードネームによる伴奏：「サザエさん」	ピアノの練習	120
3	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論②	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】ハ長調の音階と主要三和音の概要	ピアノの練習	120
4	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論③	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】ハ長調の幼児曲：手をたたきましょう	ピアノの練習	120
5	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論④	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】ハ長調の小テスト（音階、コード進行）	ピアノの練習	120
6	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論⑤	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】ヘ長調の音階と主要三和音の概要	ピアノの練習	120
7	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論⑥	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】ヘ長調の幼児曲：たなばたさま	ピアノの練習	120
8	第一回ピアノ・弾き歌いテスト	第一回ピアノ・弾き歌いテスト	ピアノの練習	120
9	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論⑦	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】ヘ長調の小テスト（音階、コード進行）	ピアノの練習	120
10	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論⑧	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】ト長調の音階と主要三和音の概要	ピアノの練習	120
11	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論⑨	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】ト長調の幼児曲：うみ	ピアノの練習	120
12	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論⑩	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】ト長調の小テスト（音階、コード進行）	ピアノの練習	120
13	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論⑪	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】短調の音階と主要三和音の概要	ピアノの練習	120
14	個々の能力に応じたピアノ個人レッスンと音楽理論⑫	【個人レッスン】個人個人の能力に応じたピアノ、弾き歌いのレッスン 【集団レッスン】導入について	ピアノの練習	120
15	第二回ピアノ・弾き歌いテスト	第二回ピアノ・弾き歌いテスト	ピアノの練習	120

《専門教育科目》

科目名	音楽Ⅱ	科目ナンバリング	C3021SYh068
担当者氏名	高井 翔海, 田村 幸造, 津田 安紀子, 藤田 浩恵, 小林 未季, 佐藤 裕子, 森本 満穂子, 宮内 晴加, 一ノ瀬 夏美	担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	2年 ・ I期

《授業の概要》

ピアノの個人レッスンを行います。音楽Ⅱでは、音楽Ⅰで取得したグレードを引き継ぎ、レパートリーを増やしながら、ピアノや弾き歌いの基礎技能をさらに高めます。また、幼児教育現場での音楽指導の場面も意識しながら演奏できることを目指します。

《授業外学習》

- ピアノ曲、弾き歌い曲ともに、各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くしてレッスンを受けるようにすること。
- 弾き歌いは、幼児教育現場での歌唱指導の場面も意識しながら練習すること。
- 律動は、子どもたちの動きをイメージしながら練習すること。

《テキスト》

音楽Ⅰと同じ。
個人個人の学習状況により使用楽譜は異なるが、ピアノが上達した場合は、バイエル→ブルグミュラー→ソナチネと進む（担当教員の指示を受けること）

《参考図書》

- ※歌の楽譜はどちらかを使用（担当教員の指示を受けること）
- ①『音楽リズム幼児のうた楽譜集』東京書籍②『やさしく弾けるピアノ伴奏保育のうた12か月』新星出版社

《学習状況・理解度の確認》

毎回の個人レッスン及び中間発表の中で理解度を確認します。

《備考》

Music II
ICT双方向型授業です。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	保育現場の子どもたちの様子をイメージしながら、演奏することができる。
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	バイエルが修了し、弾き歌いのレパートリーが20曲以上ある。
○ 3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	レッスンやグレード試験での自分の演奏を振り返り、技能や表現力をさらに高められるよう工夫して練習できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	40
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	10
その他(平常点)	50
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の説明、グレード試験の説明、担当教員との顔合わせ	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
2	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
3	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
4	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
5	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
6	小テスト	第一回ピアノ、弾き歌いテスト	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
7	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
8	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
9	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
10	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
11	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
12	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
13	小テスト	第二回ピアノ、弾き歌いのテスト	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
14	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120
15	個々の能力に応じたピアノと歌の指導	【個人レッスン】個々の能力に応じたピアノ、弾き歌い、律動のレッスン	ピアノと弾き歌い、律動の練習	120

《専門教育科目》

科目名	教育・保育の計画と評価			科目ナンバリング	C3011SGG042
担当者氏名	三宅 美由紀			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 必	開講年次・開講期
					1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育課程や全体的な計画、指導計画の作成について、その意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことができるように、基本的な知識を修得する。保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とする。さらに、保育をめぐる今日的課題をいろいろな方法で察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を修得し保育の実践力を養う。

《テキスト》

『教育課程・保育の計画と評価』
著者 岩崎淳子、及川留美、粕谷亘正 2023年4月 萌文書林

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 『保育所保育指針解説』
厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
内閣府 文部科学省 厚生労働省

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	教育課程・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解し説明できる。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	主体的・創造的に自らの保育活動を計画・実施・評価・改善しようとする姿勢をもつ。
◎	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	社会的背景を理解し、子供の発達や身体の状態に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。

《授業外学習》

○次回の授業範囲を予習しておくこと。特にテキストをよく読んでおくこと。
○適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり調べたりしてまとめること。

《学習状況・理解度の確認》

・課題などの提出物は、コメントを付して返却する。
・毎授業の終わりに学んだことをまとめてmanabaに提出する。授業内容の理解度を確認し、次回の授業に反映させる。

《備考》

Curriculum planning
・幼稚園、保育所、認定こども園に関する情報を意識的に収集すること。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	40
発表・実技	10
授業内課題	0
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の目的、内容、方法、評価について知る。保育とは何かについて考え、幼児時代を振り返ることで、授業への興味、関心、意欲をもつ。	テキスト p. 8～18通読	45
2	保育の基本について	幼稚園や保育所等における保育と小学校における教育の違いについて学ぶ。	テキスト p. 19～36通読	45
3	教育課程・全体的な計画と指導計画(1)	幼稚園の指導計画、保育所、幼保連携型認定こども園における全体的な計画とは何かを学ぶ。	教育課程、保育課程を調べる	60
4	教育課程・全体的な計画と指導計画(2)	指導計画について基本的な考え方を理解する。	テキスト p. 37～46通読	45
5	幼稚園の理解	幼稚園教育要領の内容に沿って、幼稚園の役割や幼稚園教育の基本について学ぶ。	テキスト p. 47～65通読	45
6	幼稚園における教育課程と指導計画の実際	幼稚園の指導計画がどのような考えのもとに作成されているかを理解する。	テキスト p. 67～79通読	45
7	保育所の理解	保育所保育指針の内容に沿って、保育所の役割や保育所保育の基本について学ぶ。	テキスト p. 80～99通読	45
8	保育所における全体的な計画と保育の実際	指導計画がどのような考えのもとに作成されているかを理解する。	テキスト p. 100～128通読	45
9	指導計画の作成の基本とその方法(1)	指導計画における記載項目やその内容、作成手順の基本について理解する。	さまざまな指導計画を収集	60
10	指導計画の作成の基本とその方法(2)	指導計画におけるそれぞれの項目、その書き方についてグループワークを行う。	テキスト p. 129～136通読	45
11	幼稚園、保育所の部分指導計画	幼稚園、保育所の部分指導計画の作成について学ぶ。	テキスト p. 137～144通読	75
12	乳児、1・2歳児の特徴と指導計画	0歳、1歳、2歳児の特徴を理解し、子どもの姿を捉え、指導計画のねらい、内容を作成する。(グループワーク)	テキスト p. 145～152通読	45
13	幼児の特徴と指導計画	3歳、4歳、5歳児の特徴を理解し、子どもの姿を捉え、指導計画のねらい、内容を作成する。(グループワーク)	テキスト p. 154～177通読	45
14	保育の実践と評価	保育実践を振り返ることが、保育の質の向上につながることを理解し、幼稚園、保育所の全日の指導計画を作成する。(グループワーク)	これまでの授業内容の整理	60
15	学修のまとめ	これまでの内容の振り返り全体講評(質疑応答を含む)を行う。	授業内容のまとめ	60

《専門教育科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	C3031SGG021
担当者氏名	三浦 摩美	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必
		開講年次・開講期	3 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育の本質、意義や役割、教育思想と教授論の歴史的展開等について学ぶと共に、現代社会の変化に対応した教育課題や子ども・家庭・地域を取り巻く教育・幼児教育の現状と課題、これからの方向性について理解し考えることで、教育について広い視点から洞察する力を身につけることができるようにする。

《授業外学習》

教科書やプリントを通読すると共にノートの整理をし、予習と復習に取り組む。平常の課題では、教科書や参考資料、ノートに目を通し、出された課題について要点をmanabaへレポート提出する（予習レポートを毎週提出）。授業中に小テストを実施しますので、学んだ内容をしっかりと復習する（3回予定。振り返り学習）。

《テキスト》

最新保育士養成講座第2巻『教育原理』全国社会福祉協議会, 2019年初版第1刷。

《学習状況・理解度の確認》

毎週のmanabaへの課題提出（平常レポート）と授業内での小テストを通して学習状況と理解度を確認する。

《参考図書》

適時紹介する。

《備考》

出席と平常の取り組みを重視しますので、止むを得ない場合を除いて必ず出席し、提出物を提出すること。Principles of Education (Pedagogical Anthropology)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	多様な教育観・子ども観や教育思想が理解でき、自らの教育観・子ども観、実践観に応用できる。
◎	2-1 自ら課題を発見しようとする力	教育の歴史や現代社会にある教育課題に目を向け、事象への洞察力を鍛える。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	教育に関する専門的な知識を獲得することで、自らの生活やこれからの職業人生に向けた土壌作りにつなげる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	45
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	45
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育の定義(1)	教育とは何か、保育と教育について歴史的な文脈から理解する	教科書通読・要点整理pp2-13	45
2	教育の定義(2)	教育とは何か、保育と教育について制度的な側面から理解する	通読・要点整理pp13-21	45
3	教育の意義と目的(1)	学校教育制度における教育の意義と乳幼児期の教育的意義	通読・要点整理pp22-29	45
4	教育の意義と目的(2)	乳幼児期の教育の特性と教育目的	通読・要点整理pp29-35	45
5	人間形成と家庭・地域・社会	教育基本法・家庭支援と子ども家庭福祉、社会づくりの参画者としての子ども	通読・要点整理pp46-53	45
6	生涯学習社会における教育課題(1)	教育という営みの変化、これまでの生涯学習社会の考え方	通読・要点整理pp156-162	45
7	生涯学習社会における教育課題(2)	日本における生涯学習の展開、社会教育・学校教育・リカレント（キャリア）教育・個人々人への教育と生涯学習	通読・要点整理pp162-172	120
8	諸外国の教育思想と歴史(1)	古代ギリシャと古代ローマの歴史と教育思想、生涯学習社会に関する小テスト	通読・要点整理pp56-58	45
9	諸外国の教育思想と歴史(2)	中世社会と教育思想、教会学校、世俗教育、中世大学の誕生	通読・要点整理pp59-61	45
10	諸外国の教育思想と歴史(3)	近世社会と教育思想、歴史的トピック、啓蒙思想と教育	通読・要点整理pp62-64	45
11	諸外国の教育思想と歴史(4)	近代教育思想の成立と子ども観	通読・要点整理pp64-70	120
12	諸外国の教育思想と歴史(5)	近代教育制度の確立と教育学の発展、近代以前と近代の子ども観と教育観の変遷	通読・要点整理pp70-73, 80-81	120
13	日本の教育思想と歴史(1)	古代国家の成立とその教育体制、国風文化の形成と中世の教育、近世の教育と子ども観、西欧教育史小テスト	通読・要点整理pp73-75	45
14	日本の教育思想と歴史(2)	近代から現代にかけての教育と教育思想、子ども観の変遷	通読・要点整理pp76-79, 81-85	120
15	まとめ	生涯学習社会と現代の教育課題、日本教育史小テスト	通読・要点整理pp173-184	60

《専門教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011SYZ027
担当者氏名	日坂 歩都恵, 未定	担当形態	複担
授業方法	実習	単位・必選	5 ・ 選
		開講年次・開講期	3年 ・ 通年(I期)

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらの総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、体験的な学びから保育技術や実践力を身につける。

《授業外学習》

○適宜課題に取り組み、期日に提出する。
○全体の計画、指導計画、指導案作成を行い、実習の準備する。
○子どもの発達について知識を深め、子どもの理解と保育者の援助につなげる。

《テキスト》

汐見稔幸、大豆生田啓友他『保育・教育実習』（アクティベート保育学12）ミネルヴァ書房 2022年
開仁志、『実習日誌の書き方』、一藝社、2016年

《学習状況・理解度の確認》

授業課題はその内容の理解ができているかを確認する。分からないことは毎授業終了時などで質問を受けつける。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 2018年

《備考》

・科目担当者は、幼稚園園長・教諭経験のある実務経験者である。
・日常生活習慣を見直し、健康管理に留意する。Teaching Practicum

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	幼稚園教育要領及び幼児の実態などを踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
◎	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	幼稚園教育の基本を知る。幼稚園生活における幼児の姿を理解し保育実践につなげる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	20
その他(実習評価)	50
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	実習ノート・観察記録の書き方	実習ノート、観察記録の書き方を理解する。	実習の手引き	45
2	幼稚園の環境構成	幼稚園の遊びや生活にふさわしい環境構成を考え理解する。	実習の手引き	60
3	幼稚園の生活	附属加古川幼稚園を観察し、幼児の活動や環境構成について記録する。	観察の振り返り	60
4	幼稚園の生活	グループごとに幼稚園の観察の振り返りをする。	観察の振り返りと課題	60
5	指導計画の作成(部分実習)	部分実習の指導計画を作成する。	テキストp160～184通読	60
6	指導計画の作成(全日実習)	全日実習の指導計画を作成する。	テキストp160～184通読	60
7	保育の実際①	DVD「責任実習の実際」を視聴する。	自己課題 教材研究	60
8	保育の実際②	保育の展開を理解し、課題を明確にする。	自己課題 教材研究	60
9	実習の自己課題	実習の自己課題や実習生としての態度を確認する。	自己課題 教材研究	60
10	実習報告書の作成①	テーマ毎のグループをつくり、保育実践の事例をあげて考察する。	実習報告書の作成	60
11	実習報告書の作成②	教育実習を振り返り、グループ全体で討議しまとめる。	実習報告書の作成	60
12	実習報告会①	実習での学びと自己課題を報告する。	実習の振り返り	60
13	実習報告会②	実習での学びと自己課題を報告する。	実習の振り返り	60
14				45
15				45

《専門教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011SYZ027
担当者氏名	日坂 歩都恵, 未定	担当形態	複担
授業方法	実習	単位・必選	5 ・ 選
		開講年次・開講期	2年 ・ 通年()

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらの総合的に指導する力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、体験的な学びから保育の実践力を身につける。

《授業外学習》

○適宜課題に取り組み、期日に提出する。
○ペーパーサート、エプロンシアター等の教材研究を行い、実習の準備をする。
○子どもの発達について知識を深め、子どもの理解と保育者の支援につなげる。

《テキスト》

汐見稔幸、大豆生田啓友他『保育・教育実習』（アクティベート保育学12）ミネルヴァ書房 2022年
関仁志、『実習日誌の書き方』、一藝社、2016年

《学習状況・理解度の確認》

授業課題はその内容の理解ができているかを確認する。分からないことは毎授業終了時などで質問を受けつける。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 2018年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 文部科学省 厚生労働省 2018年

《備考》

科目担当者は、幼稚園園長・教諭経験のある実務経験者である。日常生活習慣を見直し、健康管理に留意する。Teaching Practicum

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	幼稚園教育要領及び幼児の実態などを踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
◎ 3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	幼稚園教育の基本を知る。幼稚園生活における幼児の姿を理解し保育実践につなげる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	20
その他(実習評価)	50
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育実習の意義と目的	実習資格条件並びに実習要綱の確認、観察実習の意義と目的について理解する。	『実習の手引き』	45
2	教育実習の内容	実習の流れと内容について理解する。	『実習の手引き』	45
3		(授業計画3～15回は、3年次1期に行う)		45
4				45
5				45
6				45
7				45
8				45
9				45
10				45
11				45
12				45
13				45
14				45
15				45

《専門教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C3011SYZ027
担当者氏名	日坂 歩都恵, 未定	担当形態	複担
授業方法	実習	単位・必選	5 ・ 選
		開講年次・開講期	3年 ・ 通年(Ⅱ期)

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらの総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、体験的な学びから保育技術や実践力を身につける。

《授業外学習》

○適宜課題に取り組み、期日に提出する。
 ○全体の計画、指導計画、指導案作成を行い、実習の準備する。
 ○子どもの発達について知識を深め、子どもの理解と保育者の援助につなげる。

《テキスト》

汐見稔幸、大豆生田啓友他『保育・教育実習』（アクティベート保育学12）ミネルヴァ書房 2022年
 開仁志、『実習日誌の書き方』、一藝社、2016年

《学習状況・理解度の確認》

授業課題はその内容の理解ができているかを確認する。分からないことは毎授業終了時などで質問を受けつける。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 2018年

《備考》

・科目担当者は、幼稚園園長・教諭経験のある実務経験者である。
 ・日常生活習慣を見直し、健康管理に留意する。Teaching Practicum

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	幼稚園教育要領及び幼児の実態などを踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
◎	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	幼稚園教育の基本を知る。幼稚園生活における幼児の姿を理解し保育実践につなげる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	20
その他(実習評価)	50
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	実習ノート・観察記録の書き方	実習ノート、観察記録の書き方を理解する。	実習の手引き	45
2	幼稚園の環境構成	幼稚園の遊びや生活にふさわしい環境構成を考え理解する。	実習の手引き	60
3	幼稚園の生活	附属加古川幼稚園を観察し、幼児の活動や環境構成について記録する。	観察の振り返り	60
4	幼稚園の生活	グループごとに幼稚園の観察の振り返りをする。	観察の振り返りと課題	60
5	指導計画の作成(部分実習)	部分実習の指導計画を作成する。	テキストp160～184通読	60
6	指導計画の作成(全日実習)	全日実習の指導計画を作成する。	テキストp160～184通読	60
7	保育の実際①	DVD「責任実習の実際」を視聴する。	自己課題 教材研究	60
8	保育の実際②	保育の展開を理解し、課題を明確にする。	自己課題 教材研究	60
9	実習の自己課題	実習の自己課題や実習生としての態度を確認する。	自己課題 教材研究	60
10	実習報告書の作成①	テーマ毎のグループをつくり、保育実践の事例をあげて考察する。	実習報告書の作成	60
11	実習報告書の作成②	教育実習を振り返り、グループ全体で討議しまとめる。	実習報告書の作成	60
12	実習報告会①	実習での学びと自己課題を報告する。	実習の振り返り	60
13	実習報告会②	実習での学びと自己課題を報告する。	実習の振り返り	60
14				45
15				45

《専門教育科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	C3031SYZ037
担当者氏名	藤野 正和	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

本講義は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる教育心理的観点からの生徒理解や授業方法についての考え方を理解することを目的とする。具体的には、幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解するとともに、学習に関する基礎的知識を身に付け、また発達を踏まえた学習を支える指導についての基礎的な考え方を学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『教職に生かす教育心理学』石井正子・中村徳子編著 みらい

《授業外学習》

関連する資料を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めること。授業で配布するプリントを振り返り、授業で扱った重要語句の意味について理解すること。

《学習状況・理解度の確認》

オフィスアワーや講義の前後を活用して質問を受ける。小テスト等で学習状況・理解度の確認を行う。

《備考》

グループワークを用いた授業、ICTを活用した双方向型授業を実施している。

科目名の英語表記：Educational Psychology

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 2-1 自ら課題を発見しようとする力	保育・教育における心理学的な視点に関する学びを通して、自らの課題を発見して受け止めることができる
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育・教育に関する心理学の専門的な知識や技術を習得して、それらを実際の支援に生かすことができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	60
レポート	10
発表・実技	0
授業内課題	30
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業ガイダンス(授業内容および進め方)・教育心理学とは	事前：シラバスの通読	60
2	発達と教育	子どもの発達に関する基本的な知識について学ぶ	事前：資料の通読	60
3	知的発達の過程	ピアジェの考え方をもとに人間の知的発達の過程を学ぶ	事前：資料の通読	45
4	記憶のしくみ	記憶のしくみや種類、忘れる(忘却) ことについて学ぶ	事前：資料の通読	60
5	脳科学からの示唆	脳研究からわかってきたことをもとに成長や発達を学ぶ	事前：資料の通読	60
6	学習のしくみ	心理学における学習についていくつかの理論をもとにそのしくみを学ぶ	事前：資料の通読	60
7	動機づけーやり気が起きるしくみー	やる気や動機づけのしくみについて学ぶ	事前：資料の通読	60
8	確認テストの実施と解説	確認テストを実施して、回答内容の解説を行う	事前：資料の通読	60
9	頭がよいとはー知能と測定ー	さまざまな知能理論や知能を測定する検査法について学ぶ	事前：資料の通読	60
10	パーソナリティと教育	パーソナリティの代表的な理論を学び、パーソナリティの考え方を学ぶ	事前：資料の通読	60
11	学級集団と学級経営	学級集団のもつ教育的な意義とその集団を育てる学級経営について学ぶ	事前：資料の通読	60
12	学校不適応と心理的な援助	学校不適応とはどのような状態か、また学校不適応への心理的支援について学ぶ	事前：資料の通読	60
13	障害のある子どもたちと特別支援教育①	障害の基本的な理解をもとに、障害のある子どもの特性やそれにもとづく支援について学ぶ	事前：資料の通読	60
14	障害のある子どもたちと特別支援教育②	障害の基本的な理解をもとに、障害のある子どもの特性やそれにもとづく支援について学ぶ	事前：資料の通読	60
15	学習の総括	本授業の内容を整理するとともに、学びの総括を行う	事前：資料の通読	60

《専門教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	C3031SYZ040
担当者氏名	水森 ゆりか	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	3年 ・ I期

《授業の概要》

現代公教育の「制度」（学校制度、教育法制など）及び「制度実態」（教育行政、学校経営など）についての体系的な知識を獲得するとともに、近年の教育政策の動向を検討しながら、現代公教育制度をめぐる諸課題を理解し（「学校と地域との連携」「学校安全への対応」に関する理解を含む）、それらの課題を主体的に考究する力が身に付くよう、授業を進める。

《授業外学習》

予習として事前配布プリントを読んでおくこと。毎回の授業後に復習をし、専門用語の意味等をノートに整理しておくこと。日頃から新聞やニュースをチェックし、教育制度の動向に関心を持つようにすること。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》

レポートについては、評価を付して返却するとともに、授業中に全体講評を行う。試験に関しては、要点の解説を行う。質問については、授業中に配布するコメントシートを活用してください。

《参考図書》

河野和清編『現代教育の制度と行政（改訂版）』福村出版、2017年
坂田仰他『新訂第4版 図解・表解 教育法規』教育開発研究会、2021年

《備考》

グループワークを行い、その成果をレポートにまとめる回がある。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	現代公教育の制度的枠組み（学校制度、教育法制など）について説明することができる。
	現代公教育の制度的運用（教育行政、学校経営など）について説明することができる。
○ 2-2 自ら課題を解決しようとする力	近年の教育政策の動向を理解し、今後の課題について主体的に考究することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	40
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	現代教育の諸問題	①学校教育をめぐる問題、②家庭教育をめぐる問題、③教育問題の背景（「グループ討論」の時間を設ける。）	事前配布プリントの通読	45
2	現代の公教育制度(1)	①公教育の概念と構成原理、②学校制度の成立・展開、構造・概要	事前配布プリントの通読	60
3	現代の公教育制度(2)	①現代日本の学校制度、②公教育制度の今日的課題	事前配布プリントの通読	60
4	教育法制	①教育法規の構造、②教育基本法、③教育権の種類・構造、④教育法制の特色	事前配布プリントの通読	60
5	教育行政	①教育行政の概念、②文部科学省、③教育委員会制度	事前配布プリントの通読	60
6	学校経営と学校評価	①学校経営の概念・領域、組織・過程、②学校評価の実態・課題	事前配布プリントの通読	60
7	教職員の職務・サービス前半のまとめ	①教職員の職務・サービス、②教職員の懲戒・分限、③教職員評価、④前半のまとめの試験	事前配布プリントの通読	60
8	就学前教育制度(1)	①小学校就学前教育の歩み、②幼稚園教育制度	事前配布プリントの通読	60
9	就学前教育制度(2)	①保育所保育制度、②認定こども園教育・保育制度	事前配布プリントの通読	60
10	教員養成・研修制度	①教職の性格、②教員養成、③教員研修	事前配布プリントの通読	60
11	現代日本の教育改革(1)	①近年の教育政策の動向、②教育改革における主要な論点（「グループ討論」の時間を設ける。）	事前配布プリントの通読	60
12	現代日本の教育改革(2)	①諸外国の教育改革の動向、②現代日本の教育政策の課題（「グループ討論」の時間を設ける。）	事前配布プリントの通読	60
13	学校と地域の連携	①地域との連携による学校教育活動、②「開かれた学校づくり」	事前配布プリントの通読	60
14	学校安全への対応	①学校保健安全法、②危機管理と事故対応、③「学校安全」上の課題	事前配布プリントの通読	60
15	まとめ	①学習の振り返り（試験を含む）、②全体講評（質疑応答を含む）	これまでの授業内容の整理	120

《専門教育科目》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	C3031SYh055
担当者氏名	足立 法子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	3 年 ・ II 期

《授業の概要》

対人援助職を目指す者として必須となる事項の理解と専門職としての技術を用いた対応を学ぶ。

1. 基本的なカウンセリングの理論など、基礎知識を身につける。
2. 子どもの発達状況、心理的特質等に即した関わりがもてるようになる。
3. 保育・教育相談の現場においてよくある相談や事例について、専門性を活かした対応ができるよう、実践的な力を養う。

《テキスト》

新時代の保育双書「子どもの理解と保育・教育相談 第2版」小田豊・秋田喜代美編，2021，みらい

《参考図書》

必要に応じて参考文献を紹介する。

《授業外学習》

- ・ 授業中に配布する資料を整理し、熟読する。
- ・ 実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。
- ・ 授業中に検討する事例について、対応については答えが1つと限られないこともある。他者との議論に積極的に参加すること。

《学習状況・理解度の確認》

授業ごとの提出物、レポート、考査を実施する。

《備考》

講義開始時に出席確認をする。
Educational Counseling

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	心理学の知識を用いて、子どもや保護者を理解し、その対応方法を身につける。
◎ 2-1 自ら課題を発見しようとする力	教育現場で生じる様々な問題行動の意味を考え、理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	0
授業内課題	20
その他 ()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	ガイダンス	授業の実施方法の確認をする。保育の場における相談ニーズの解説を聞き、その役割を理解する。	テキスト p. 10～p. 17	45
2	子どもの発達理解と相談・支援①	乳児期の子どもの発達について理解し、事例検討によって子どもへのかかわり方を学ぶ。	テキスト p. 18～p. 30	45
3	子どもの発達理解と相談・支援②	幼児期・学童期の子どもの発達について理解し、事例検討によって子どもへのかかわり方を学ぶ。	事例の対応方法等の検討	45
4	保護者への対応	子育てにおける悩み、保育者の役割について学び、保護者に対する発達支援とはどのようなことかを理解する。	テキスト p. 32～p. 38	45
5	支援を要する子どもとその保護者への対応	発達障害をはじめとする個別のニーズを有する子どもとその保護者への対応について学ぶ。	テキスト p. 47～p. 52	45
6	子ども理解のための発達理論	子ども理解のための子どもの発達理論とアセスメントについて学ぶ。	テキスト p. 61～p. 66	45
7	カウンセリング的アプローチ	カウンセリングの基礎理論について解説を聞き、体験学習によって理解する。	テキスト p. 67～p. 70	45
8	教育相談に活かすカウンセリングの基本	「傾聴の姿勢」とはなにかを知り、演習によって理解する。	テキスト p. 72～p. 76	45
9	カウンセリング技法	「カウンセリング技法」とはなにかを知り、演習によって理解する。	テキスト p. 77～p. 80	45
10	保育コンサルテーション、地域資源の活用と連携	保育におけるコンサルテーションについて事例をもとに学ぶ。人的・社会資源について学び、多職種連携による支援活動への理解を深める。	テキスト p. 86～p. 91	45
11	事例検討による学習①	6種類から2事例を選択し、グループごとに事例検討をする。発表にむけて準備をする。	検討内容のまとめ、発表準備	60
12	事例検討による学習②	保育場面において、子どもへの支援をテーマとし、事例検討の内容を発表し、議論をする。	事例検討での学びをまとめる。	60
13	事例検討による学習③	保育場面や子育てにおける保護者への支援をテーマとし、事例検討の内容を発表し、議論をする。	事例検討での学びをまとめる。	60
14	学習のまとめ	これまでの学習内容をまとめ、教育相談における保育者の専門性について確認をする。	配布資料等の整理	45
15	学習の振り返り	学修のまとめを行い、学んだ内容を振り返る。	学習内容の復習	120

《専門教育科目》

科目名	教師・保育者論			科目ナンバリング	C3022SGG041
担当者氏名	三宅 美由紀, 中村 一美			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 必	開講年次・開講期
					2 年 ・ II 期

《授業の概要》

学生が目指す保育者像を明確にし、その実現のために必要な学習課程を計画する。また、保育に関する知識を深める。Ⅰ期に学んだ理論や実習からの学びを通して、チーム学校運営の一翼を担う保育者としての資質の向上と実践の省察、評価の大切さを知る。さらに、学生自身の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用するなど、自らの望ましい保育者像を構想する。

《テキスト》

『今に生きる保育者論』第4版
秋田 喜代美（編集代表） 西山 薫・菱田 隆昭（編集）

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針解説』
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
その他授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	教職の意義と保育者の役割を理解し、望ましい保育者像を形成することの意義を理解する。
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育者に対する自らの適正を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。

《授業外学習》

- 次回の授業範囲を予習しておく。
- 出題課題について、調べたりまとめたりしておく。
- 授業で学んだことを振り返り、ノート等にまとめておく。

《学習状況・理解度の確認》

課題などの提出物は、コメントを付して返却する。
授業の終わりに、学んだことをまとめ「学び表」に記録する。

《備考》

保育所、幼稚園、認定こども園などに関する情報を常に意識して収集しておく。担当者は園長経験のある実務経験者。グループワークを通して多様な価値観にふれ考えを深める。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	40
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	20
授業内課題	10
その他（授業態度）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法などのガイダンスを行う。現時点で、めざす保育者像をまとめる。	テキストp.13～p.22を通読	45
2	保育者への扉	幼稚園教諭、保育士、保育教諭、児童福祉施設の保育士などの仕事や役割職務内容について学ぶ。	テキストp.23～41を通読	45
3	保育者の仕事と役割	幼稚園教諭免許状・保育士資格取得課程の構造と保育の現場で学ぶ意味を知る。	テキストp.42～p.61を通読	45
4	保育者になるための学び	今、保育者の求められているもの、現代の保育者に期待されている役割について学ぶ。	テキストp.62～p.86を通読	45
5	職場で学びあう専門家	保育における職員間の連携・協働、専門機関・地域との連携・協働を知る。	テキストp.87～p.104を通読	45
6	目指す保育者像を考える	なぜ保育者をめざすのかを問い直し、各自の努力目標を具体化することにより、学びを深める。（グループワーク）	テキストp.61～p.104を通読	60
7	保育者の資質向上とキャリア	専門性を高めるための取り組みや、研修について知る。	テキストp.105～p.115を通読	45
8	子どもの育ちの危機と子育て支援	社会全体で子育て支援をしていく仕組みの重要性、園での子育て支援の役割について学ぶ。	テキストp.116～p.136を通読	60
9	「子育て支援」を考える	特別支援と保育、「子育て支援」と保育者の役割を学ぶ。	テキストp.137～p.150を通読	45
10	現代社会の変化と保育者の仕事や課題	保育者の担うべき仕事（課題）、内容を拡大させる現代社会の変化について考える。	テキストp.137～p.150を通読	45
11	日本の保育者のあゆみ	保育所や幼稚園の発展に力を尽くした保育者、教育者の思想と実践について理解する。	テキストp.151～p.166を通読	45
12	資料に見る保育者の姿	国内外のさまざまな資料から、保育者に求められている役割の変化、働き方、また、海外の保育制度等について知る。	テキストp.167～p.188を通読	45
13	諸外国の保育者	保育に関する視野を広げ、保育・幼児教育についての近年の動向を知る。（グループワーク）	テキストp.189～p.202を通読	45
14	保育者になる人へのメッセージ	先輩の生の声を通して、生活経験、人とのかかわり、自分磨き等保育に関する専門的学習の基本について幅広く深く学ぶ。	テキストp.203～p.214	75
15	学修のまとめ	これまでの学修内容と得られた知見、その成果をまとめる。試験	授業内容のまとめ	75

《専門教育科目》

科目名	子どもと音楽表現	科目ナンバリング	C3011SGG063
担当者氏名	崎元 りずみ	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 必
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

幼児の感性や想像力を豊かにする音楽表現や楽器の特性を生かした音楽活動を学び、幼児期の音楽活動、表現活動を支援するための知識、技能を習得すると同時に自らもペアや少人数でアンサンブルを通し、音楽の楽しさを体験する。

《授業外学習》

読譜については、各自毎日練習を継続すること。

《テキスト》

おんがくのしぐみ
歌って動いてつくってわかる音楽理論
教育芸術社 2020年発行

《学習状況・理解度の確認》

単元ごとに個別指導や小テストを行い定着を図る。また、発表の機会設ける。

《参考図書》

教育や保育に携わる人々のための
新・声楽指導教本 教育芸術社

《備考》

演奏に不適切なネイル、爪等は、評価に反映する。担当者は音楽担当教諭とし小中学校勤務歴のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	①領域「表現」の内容を理解し、様々な音楽表現方法の知識・技能を身につける。
○ 2-1 自ら課題を発見しようとする力	②わらべ歌や伝統的な音楽などに親しみ、表現活動に生かせるようにする。
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	③色々な楽器の特性を生かした奏法や表現活動における活用法を学ぶ。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	10
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	10
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の概要についてのガイダンス	楽典基礎復習(五線と鍵盤)	45
2	わらべ歌と遊び歌	拍・拍子・身体表現 自然の中の音	リズム・拍子	45
3	ドレミで遊ぶ	音階と調 日本の音階と音楽	リズム・拍子	45
4	リズムを楽しむ①	キッズドラムや小物打楽器を使用し、いろいろなリズム打ちをする	リズム視唱	45
5	リズムを楽しむ②	スキップやマーチ等、動きに合わせたリズム活動	リズム打ち	45
6	リズムを楽しむ③	チャチャチャ、4ビート等、曲に合わせたリズム活動 合奏①	リズム打ち	45
7	歌っておどって	身体表現を取り入れた歌唱表現	複合拍子・混合拍子	45
8	楽器に親しむ①	鍵盤楽器、ラテン楽器を用いた活動 合奏②	旋律視唱	45
9	楽器に親しむ②	木琴・鉄琴 トーンチャイム等を用いた活動 合奏③	旋律視唱	45
10	アンサンブルをする①	ML機能を活用し、アンサンブルをする	和音	45
11	アンサンブルをする②	曲想を生かした器楽合奏の工夫	コード	45
12	お話しと音楽①	紙芝居や絵本に音や音楽を工夫する	場面ごとの曲を練習	45
13	お話しと音楽②	紙芝居や絵本に音や音楽を工夫する	場面ごとの曲を練習	45
14	グループ発表をする	発表を通して、互いの表現の面白さを共有する	発表に向けての練習	45
15	振り返り、まとめ	学修内容を振り返る	まとめ	60

《専門教育科目》

科目名	子どもと環境	科目ナンバリング	C3021Syh061
担当者氏名	中村 一美	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

現代の乳幼児期を取り巻く環境やその関りについて専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。環境を通して乳幼児の発達に即した深い学びが実現する過程を実践事例から学ぶ。もの・人・自然・社会などの環境や環境の構成について興味関心を深め、指導場面を想定し、保育内容を構想する力や指導方法を身に付ける。

《授業外学習》

幼児教育は「環境を通して行う教育」が基本である。環境に対する豊かな感受性が育まれるように、特に自然環境、またその他身の回りの環境にたえず関心をもち、領域「環境」への学びを深める。

《テキスト》

『保育内容 環境』小田豊・湯川秀樹 編著 北大路書房
適宜資料を配布する。

《学習状況・理解度の確認》

身近な環境に興味関心が広がるように課題学修を実施する。実践事例を通して、ディスカッションやグループワークをし、他の学生の意見を聞いたり発表したりする中で考えを深めていく。

《参考図書》

文部科学省 (2018) 『幼稚園教育要領』、厚生労働省 (2018) 『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

《備考》

・現代の乳幼児を取り巻く環境に興味関心をもち、日頃から情報収集に努める。
・担当者は園長経験のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	社会は様々な人で構成されている(人種・男女・性格・大人・子どもなど)保育は他者の理解から始まることを学ぶ
○ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育士とは育児の専門家であり、そのための基礎知識や技術を身に付け実践の場で生かすことができるようになる。
○ 3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	育児の専門家として、実践を繰り返して習熟し、自己の力を高めていく。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	0
その他(授業態度)	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	「オリエンテーション」本授業の概要と目標を理解し、授業方法や進め方について確認する。	身近な「環境」について考える	45
2	「環境」の意義	「領域「環境」のねらいと内容」5領域の全体構成と領域「環境」の理解、保育内容とのつながりについて知る。	第1章「環境の意義」	45
3	乳幼児の発達と理解	乳幼児の発達と環境の関わりを発達の特性から読み取り、「環境にかかわる力」を育てるために必要な保育者の援助を考える。	第2章「環境」と幼児理解	45
4	好奇心・探究心	好奇心・探究心を育む保育の特性を知り、環境構成・援助の在り方を学ぶ。	第3章 好奇心・探究心	45
5	思考力の芽生え	乳幼児の思考力の芽生え、広がりや深まりについて、「環境」との関係性や保育者の援助の在り方を学ぶ。	第4章 思考力の芽生え	45
6	人的環境とは	人的環境の保育的特性を知り、発達段階に応じた環境の在り方を学ぶ。	第5章 人的環境	45
7	物的環境とは	物的環境とは何かを知り、乳幼児の育ちにつながるふさわしい環境について学ぶ。	第6章 物的環境	45
8	自然環境とは	自然環境が及ぼす乳幼児の育ちを考える。自然環境を活用した実践事例を通してその意義を理解する。グループワークを通して学びを深める。	第7章 自然環境	45
9	日常生活の中での興味や関心	乳幼児の生活の中で物事の法則性に気付く場面や、その他、興味・関心をもつ場面について知り、指導の在り方を学ぶ。	第8章 1、2、3、4、5節	45
10	社会とのかかわり①	「社会とのかかわり①」地域の施設や人々とのかかわりについて考える。(ICTを使った調べ学習)	第9章 地域・行事とのかかわ	45
11	社会とのかかわり②	「社会とのかかわり②」様々な文化や保育における行事とのかかわりについて考える。(ICTを使った調べ学習)	第9章 地域・行事とのかかわ	45
12	指導計画の作成	「環境」と関わる保育場面を想定した指導計画を作成し、発表をする。指導計画作成上の留意点を学ぶ。	指導計画の作成	45
13	道徳性の芽生え	道徳の概念、道徳性を育む保育や保育者に必要な倫理観について考える。グループワークを通して学びを深める。	第10章 道徳性の芽生え	45
14	乳幼児の安全環境	安全環境・安全教育・防災教育を実践事例を通して学ぶ。	第11章 乳幼児の安全環境	45
15	学修の振り返りと確認	現代保育の課題と領域「環境」多文化共生保育やインクルーシブ教育なども含め、今までの学びの確認をする。	第12章 学修の振り返り	90

《専門教育科目》

科目名	子どもと健康	科目ナンバリング	C3021Syh060
担当者氏名	森田 恵子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

領域「健康」の指導は、子どもの心身の発達や基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達の専門的事項についての知識や技能を身につける。子どもの心身の健康状態を把握する方法、病気とその予防等の安全管理や安全教育、運動発達の理解をする。演習形式により、保育者としての、子どもの健康を守り育てるために必要な知識と技能を身に付ける。

《授業外学習》

・テキストを指定した範囲や配布資料は必ず通読してくる。健康的な基本的な生活に関心を持ち、指定した語句や項目について調べてくる。

《テキスト》

『保育者をめざすあなたへー子どもと健康ー 第2版』 勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行編 みらい 2019年

《学習状況・理解度の確認》

・授業内課題として小レポートを提出し、返却し、授業の理解度を確認する。

《参考図書》

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び解説

《備考》

・科目担当者は、実務経験者（幼稚園勤務歴あり）である。Children and Health

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。	・乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を理解し、具体的な保育実践につながる基盤を培う。
幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。	乳幼児の体の発達の特徴と基本的な生活習慣の形成とその意義を理解することができる。
幼児期の運動発達と身体活動を理解する。	幼児期に多様な動きを獲得することの意義を理解し、日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動のあり方を理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	30
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	子どもの健康とは	健康の定義、乳幼児期の健康の意義を理解	プリント・資料の復習	45
2	領域「健康」のねらい・内容	保育内容における領域「健康」のねらいと内容	プリント・資料の復習	45
3	子どもの基本的な生活習慣（睡眠）	子どもの体格との特徴や生理機能	プリント・資料の復習	45
4	子どもの身体的発達の理解（体格）	子どもの器官等の発育・発達の特徴	実践での学びの整理	45
5	子どもの基本的な生活習慣（睡眠）	基本的習慣の自立の重要性（睡眠）	プリント・資料の復習	45
6	子どもの基本的な生活習慣（食事・排泄）	基本的習慣の自立の重要性（食事・排泄）	プリント・資料の復習	45
7	子どもの基本的な生活習慣（清潔・衣服の着脱）	基本的習慣の自立の重要性（清潔・衣服の着脱）	プリント・資料の復習	45
8	日常生活における運動	社会の変化と生活の中の動きの経験、またその配慮の基本的な考え方	プリント・資料の復習	45
9	遊びとしての運動	子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方	指導案作成と模擬保育準備	60
10	食育と栄養	食育のねらいと内容、食育の実践	指導案作成と模擬保育準備	60
11	子どもの感染症	保育における感染症の予防と対応	模擬保育の振り返りと評価	90
12	子どもの事故や病気	子どもの事故や病気等のその対応	プリント・資料の復習	45
13	安全保育と危機管理	子どもにおける安全保育と危機管理	プリント・資料の復習	45
14	子どもの発育・発達の測定法の活用	子どもの体格・運動能力測定の方法と評価	プリント・資料の復習	45
15	学習のまとめと振り返り	現在の子どもの健康課題と展望	プリント・資料の復習	60

《専門教育科目》

科目名	子どもと言葉	科目ナンバリング	C3021SyH062
担当者氏名	石堂 美紀代	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	2年 ・ I期

《授業の概要》

領域「言葉」は子どもが豊かな言語や表現を身に付け、他者との関わりを楽しみ、喜びを広げるために必要な基礎的知識、技術を学ぶ。

子どもが年齢に応じた「言葉」を獲得する意義と機能を理解し、保育者として子どもの言葉を育むため視聴覚教材等ICTの活用や、手遊び・絵本・物語など実際に楽しい体験を理解し、保育への取り入れ方を具体的に学ぶ。

《テキスト》

指導法もいっしょに学ぶ保育内容「言葉」 浅井拓久也 編著 教育情報出版 2023年

《参考図書》

幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年 他適宜、授業内で紹介する。

《授業外学習》

子どもと関わる機会（特に担当者の勤務する子育て支援施設を訪問し、来所している親子に手遊びをしたり、絵本を読んだりする）を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について考えたり、発達について理解を深める。

《学習状況・理解度の確認》

授業内で質問する時間を持つ。レポートを提出させ、それについて意見を伝え理解の程度を知る。

《備考》

担当者は実務経験者（幼稚園・保育所・子育て支援施設で勤務）である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする保育実践を子どもの発達に合わせてできることを説明できる
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	子どもの発達における児童文化財の意義を理解し、技術を習得し、子どもの前でも表現できる
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	気持ちを表現する言葉が単語で片付けられている現状を振り返り、今まで以上に豊かな言葉を使う機会をとらえ、多世代の児童文化財の活用に関する経験を通じた学びを行う

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	20
レポート	50
発表・実技	20
授業内課題	10
その他(0)	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	領域「言葉」のねらいと内容について知る 担当者が勤務する子育て支援施設の事業内容、特に児童文化財を使った	テキストを読む	45
2	子どもと「言葉」の関係とは	「言葉」の意義や機能、保育との関係について学ぶ	テキストを読む	45
3	子どもを取り巻く社会環境	現代社会の特徴や保育施設や家庭の役割を知る。	テキストを読む	45
4	幼児教育とは	幼児教育の目的や育む資質や能力、五領域について学ぶ 小学校教育との接続のあり方について学ぶ	テキストを読む	45
5	言葉の役割と機能	言葉の役割、伝達機能、思考機能、行動調整機能、話言葉 書き言葉について学ぶ	テキストを読む	45
6	3歳未満児の言葉の発達の特徴	胎児から0, 1, 2歳児の言葉の発達の特徴を学ぶ	テキストを読む	45
7	3歳児以上の言葉の発達の特徴	3, 4, 5歳児の言葉の発達の特徴を学ぶ	テキストを読む	45
8	児童文化財とは	さまざまな児童文化財を知り、その目的と役割と子どもの言葉の育ちを考える	テキストを読む	45
9	「手遊び」や「言葉遊び」を生かした指導法	手遊びや言葉遊びの目的、役割、特徴を知り、使い方や留意することを学ぶ	テキストを読む	45
10	「手作りおもちゃ」を生かした指導法	おもちゃの目的、役割、特徴を知り、手作りおもちゃの作り方、使い方を学ぶ	手作りおもちゃを作る	60
11	「絵本」を生かした指導法	絵本の目的、役割、特徴と知る。絵本の種類、読み方、留意事項を学ぶ	みんなに紹介したい絵本を読む	60
12	言葉の発達を支えるために必要な保育者の援助①	保育者の言葉かけとは。子ども同士のかかわりから育つ言葉。遊びを通して育つ言葉。親子のコミュニケーションから育つ言葉について学ぶ	テキストを読む	45
13	言葉の発達を支えるために必要な保育者の援助②	保育者の言葉の力を高める必要性 振り返り、職員会議、連絡帳等について学ぶ	テキストを読む	60
14	言葉の発達に遅れがみられる子どもや外国籍の子どもに対する支援	言葉の発達に関するさまざまな課題、症状、保育者の支援のあり方について学ぶ	テキストを読む	60
15	学習のまとめと振り返り	授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する	テキスト・これまでの資料を読む	45

《専門教育科目》

科目名	子どもと身体表現	科目ナンバリング	C3021SGG065
担当者氏名	永井 夕起子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 必
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

子どもが体で表現することが心と体の発育発達に与える影響について学ぶ。幼児期の身体表現の特徴について理解し、発達に応じた活動や遊びの展開について考える。また、自分自身の身体についての理解を深め、感じたことを既成概念に捉われず自由に表現することのできる力を身につける。

《授業外学習》

- ・授業内容を振り返り、ノートにまとめる。
- ・キッズガーデンや学外の保育ボランティアに参加し、子どもの興味や動きの特徴について観察する機会をつくる。
- ・絵本や童話を読み、想像する習慣をもつ。

《テキスト》

テキストは使用しない。配布したプリントをまとめるファイルを用意すること。

《学習状況・理解度の確認》

- ・提出物にはコメントを付けて返却する。
- ・分からないことはオフィスアワー等に質問を受け付ける。
- ・授業の到達目標に対しては、ルーブリックを用いて自己評価および

《参考図書》

『幼保連携型認定こども園教育・保育指導要領』文部科学省2017、『幼稚園教育要領』文部科学省2017、『保育所保育指針』厚生労働省2017

《備考》

対面の際は動きやすい服装で参加すること。「ICT活用双方向型授業」「グループワーク」
Children and physical expression

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	自分の中にあるイメージや思いを表現することのできる、さまざまな身体の動きを身につける。
○ 2-1 自ら課題を発見しようとする力	遊びの計画・発表について振り返りシートを用いて自己評価し、達成度と課題を確認できる。
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	実践における自分の課題を明らかにし、改善するために必要な事柄を見出すことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	30
授業内課題	40
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション：子どもの身体表現について	授業の概要と受講上の注意。デジタルデータの保存と提出方法の説明。	受講内容についてまとめる	45
2	心と身体の結びつきを感じる	身体部位を認識する動き。身体知覚を刺激する遊び。	受講内容について復習する	45
3	バディを組んで遊ぶ	2人組で行えるさまざまなふれあい遊びを体験する。発達における、ふれあい遊びの効果について理解する。	受講内容について復習する	45
4	仲間づくりの遊び	自然と仲間がつくれる遊びを体験する。遊びを通じてコミュニケーションを取ることが、心や身体表現にもたらす影響について学ぶ。	受講内容について復習する	45
5	仲間と協力して遊ぶ	複数人で力を合わせて遊ぶ。他者との力のやり取りを体験し、力加減を調節することや他者へ身を任せることと心身の発達との結びつきについて学ぶ。	受講内容について復習する	45
6	道具を使った遊び①縄、フラフープ、棒	身近な遊具を利用した身体表現遊びを体験する。また、ねらいに合わせた遊び方を考案する。	受講内容について復習する	45
7	道具を使った遊び②布、スカーフ	身近な遊具を利用した身体表現遊びを体験する。また、ねらいに合わせた遊び方を考案する。	受講内容について復習する	45
8	道具を使った遊び③新聞紙、ビニール袋	身近な遊具を利用した身体表現遊びを体験する。また、ねらいに合わせた遊び方を考案する。	受講内容について復習する	45
9	基本的なリズムステップの理解	全身運動における下肢の動きの重要性について理解する。基本ステップについて学ぶ。(情報機器の活用)	受講内容について復習する	45
10	基本的なリズムステップの展開	さまざまなステップのダンスやゲームについて学ぶ。(情報機器の活用)	受講内容について復習する	45
11	体や打楽器を使った遊び	ボディパーカッションを体験し、全身でリズムをつくることの心身への影響について学ぶ。遊びの展開方法について計画を立てる。	受講内容について復習する	45
12	言葉とリズムの遊び	言葉のリズムと身体の動きを組み合わせた遊びを体験し、自分なりの表現を発表する。	受講内容について復習する	45
13	影絵遊び	光(照明・プロジェクター)を使った表現遊びを体験する。光と影の関係性を理解し、影の作品を作り発表する。	受講内容について復習する	45
14	身体表現遊びの模擬保育	計画した遊びを発表する。遊びの方法や援助の仕方について評価する。	活動内容の記録と評価	45
15	まとめ	模擬保育と授業全体を振り返り、身体表現遊びにおける援助や展開の方法に関する理解について確認する。	記録を振り返り自己評価する	45

《専門教育科目》

科目名	子どもと造形表現	科目ナンバリング	C3021SGG064
担当者氏名	半田 結, 満田 知美	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 必
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

本授業は、保育者として子どもの造形行為から発達の姿を理解し、子どもを取り巻くさまざまな環境が造形表現につながるような、基礎的な保育技術や知識を身につけることを目的としています。子どもの発達に応じた造形への関心を高める内容で進めていきます。

《授業外学習》

○小学校・中学校の「図画工作」や「美術」の教科書を振り返り、造形表現の多様性を確認する。○衣食住の中に、意識して興味のあるものを見つけ、それらを楽しむ。○美術館やギャラリーを訪ねて、さまざまな造形美術表現にふれ、感性を養う。○身の回りにある紙や箱、自然物などで手作りおもちゃを作り、自分の好きな素材や造形表現を見つけ出す。

《テキスト》

『造形表現・図画工作』磯部錦司編 建帛社、2019

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業ごとに、学修内容の確認と次回授業への準備・予習課題があります。作品や課題に対してはコメントや評価をして、必要な場合は再提出を求めます。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』平成30年3月 『保育所保育指針解説』平成30年3月

《備考》

・グループワークやプレゼンテーションの際は、教室や場所の変更を行うことがあります。
・ICT活用双方向型授業

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	自分や他者の表現をありのままに受け止め、自らを振り返ることができる。
○ 1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	様々な造形材料を用いて、自分を表現することができる。
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	乳幼児の表現の発達を理解し、保育実践に必要な表現技術を身に付ける。
○ 3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	身近にあるもので乳幼児にふさわしい表現を生み出すことができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	30
授業内課題	50
その他(課題の振り返り)	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	・オリエンテーション ・生活の中で使うものを作る	・授業の目的や進め方・評価方法、自己課題を確認する。 ・布袋を制作する。	これからの目標を考える	45
2	色と形の基礎・基本①	保育者が身につけておきたい色と形の基礎・基本について、クレヨンによる混色などを通して学ぶ。	クレヨンの技法を調べる	45
3	色と形の基礎・基本②	保育者が身につけておきたい色と形の基礎・基本について、鉛筆による表現を通して学ぶ。	鉛筆による技法を調べる	45
4	色と形の基礎・基本③	保育者が身につけておきたい色と形の基礎・基本について、水彩絵具・クレヨンなどを通して学ぶ。	絵具とクレヨンを使った技法を調べる	45
5	色と形の応用①	絵具を使ったいろいろな技法を学ぶ。フィンガーペイント、デカルコマニーなど。	絵具をつかった技法を調べる	45
6	色と形の応用①	前回制作した課題作品を利用して、遊びに繋げる方法を考える。	制作した作品から遊びを考える	45
7	表現を豊かにする技法を学ぶ①	墨を使ったいろいろな技法を学ぶ。	墨の技法を調べる	45
8	表現を豊かにする技法を学ぶ②	全員で、素材と画材を組み合わせた大きな制作に取り組む。	素材と画材を組み合わせた表現	45
9	自分を知る・子どもを知る	絵に表れることや発達の様子について学び、子どもや自己理解を深める。	子どもの絵について調べる	45
10	プレゼントするものを作る①	プレゼントする人のことを考え、カードとプレゼントを計画する。	カードの仕掛けを考える	45
11	プレゼントするものを作る②	仕掛けのあるカードを作る。	カードの装飾を考える	45
12	プレゼントするものを作る③	粘土でプレゼントするものを作る。	粘土のプレゼントを考える	45
13	身のまわりにあるもので作る①自然物	自然物を使って、造形遊びを行う。	自然物を集める	45
14	身のまわりにあるもので作る②人工物	リサイクル材などの人工物を使って、おもちゃを作る。	リサイクル材を集める	45
15	・作ったもので遊ぶ ・まとめと振り返り	・身の回りにあるもので作ったものを使って遊びを考える。 ・まとめと振り返りを行う。	これまでの課題を振り返る	45

《専門教育科目》

科目名	子ども理解の理論と方法			科目ナンバリング	C3031SYH036
担当者氏名	足立 法子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 3年・I期

《授業の概要》

乳幼児期の子どもから青年期の子どもたちが、大人をはじめとする周囲の環境との関わりの中で、どの様に発達していくのかを学ぶ。子どもの成長のプロセスを、人間関係やコミュニケーション、そして認知など様々な側面から学ぶ。また、観察と記録の意義や目的に応じた観察法などの基礎的事項を学び、個と集団の関係をとらえたいうえで、集団保育の計画を立てるための基礎理論を学ぶ。保護者の心情に寄り添う態度と基礎的な対応の方法を学ぶ。

《テキスト》

『子どもの理解と援助～育ち・学びをとらえて支える～』無藤隆、堀越紀香他編 光生館 2019

《参考図書》

『やさしく学ぶ保育の心理学』浜崎隆司、田村隆宏、湯地宏樹編 ナカニシヤ出版 2020
『子どもの理解と援助』清水益治、森俊之編 中央法規 2019

《授業外学習》

参考図書として挙げた文献などを自ら進んで読むことを通じて、授業内容について理解を深めましょう。また、子どもと接する機会を増やし、実践を通して、授業内容を身につけましょう。

《学習状況・理解度の確認》

授業内で課題を行い、その解説を翌授業日に行う。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておきましょう。質の高い保育者になることを志す学生の受講を期待します。
Psychological theories and methods for Understanding Children

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	子どもの発達について、人間関係や言語そして知力など様々な角度から捉えられるようになる。
○	1-1 多様な他者を理解しようとする力	特別な支援が必要な子どもたちへの支援の重要性について理解し、基本的な支援について学ぶ。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	子どもの発達にとって大人をはじめとする周囲の環境との関わりがなぜ重要なのかを理解できるようになる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	生きる力の基礎と多様な経験	保育に求められる共通見解を指針を読み解くことで明確にし、幼児教育の構造、求められる資質と能力を把握して専門性の向上に繋げる	テキストp1～P14の精読	45
2	子ども理解における発達の把握	子どもを理解するための知識を習得する。特に発達段階や発達過程、発達検査、知能検査を用いた多方向からの専門的視点を身につける。	テキストP15～23の精読	45
3	保育の観察と記録	日常の保育の中で、専門性の高い観察方法や記録が可能となる視点を学び、省察に繋げる力を身につける	テキストP24～29の精読	45
4	保育を振り返る	保育者の資質向上のための、自己評価、関係者評価、第三者評価の観点を理解し、自己の資質向上に繋がられるようにする	テキストP30～42の精読	45
5	保育の専門性	保育者の専門性を明確にし、立場、役割、個人が担うことを明確にし、他の保育者や保護者との関係作りにつなげる力をつける	テキストP43～50の精読	45
6	保育者と子どもとの関わり	子どもにとっての保育者の存在意義に関わる事象について事例を用いて考え、子どもへの関わり方を明確にする	第5回までの復習 テキストP51～58	60
7	子どもの仲間関係と遊び	子どもが仲間との遊ぶ体験によって得る、成長、発達に関わる事象を知る	テキストP59～69の精読	45
8	自己主張と自己抑制	幼児期の子どもの自己の発達について、自己主張・自己抑制・自己調整の観点から理解する。	テキストP70～78の精読	45
9	集団での活動と環境	子どもが集団活動を体験する中で習得する事について、事例を用いて理解する	テキストP79～89の精読	45
10	基本的生活習慣の獲得と主体性	子どもの基本的生活習慣を獲得していく過程を知り、具体的な援助を考える	第9回までの復習 テキストP90～98	60
11	発達課題に応じた援助や協働	人間の生涯発達の中の初期段階として重要である乳幼児期の発達課題を理解し、1人1人の子どもへの支援者としての関わり方を習得する	テキストP99～110の精読	45
12	発達と学びの連続性と就学支援	幼少接続に関する問題を把握し、求められている「幼児期が終わるまでの育ちの姿」に至るまでの過程を現存するカリキュラムを用いて支援の	テキストP11～122の精読	45
13	乳幼児をもつ家族の現状	現代の乳幼児をもつ家族の悩みや原因を明確に理解し、援助の道筋を考える	第12回までの復習 テキストP123	45
14	子どもの発達に影響する要因	養育環境と子どもの発達に影響する要因について、親・夫婦・家族・社会との関係を学ぶ	テキストP131～138の精読	45
15	幼稚園・保育所における子育て支援	現存する子育て支援機関がおこなっている様々なニーズへの対応方策を知り、子どもと保護者への支援の状況を理解する。	第1回から14回までの復習	60

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育A	科目ナンバリング	C3021SZH053
担当者氏名	杉田 律子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

障害児保育・教育の歴史の変遷から特別支援教育の理念を学ぶ。障害特性や個別のニーズに合わせた配慮や教育の方法について学び、インクルーシブ保育について理解を深める。大人との1対1の関係や子どもたちがともに育つことへの視点をもった保育とはどのようなものであるのか、具体的な内容について知識を得ることとともに事例を通して理解をする。他機関との連携や家庭への支援・連携、保育にかかわる協働についても学び、子どもをともに育てることへの意義と方法を理解する。

《テキスト》

『障害児保育—インクルーシブな保育に向けて—』太田俊己編著、青踏社、2022

《参考図書》

必要に応じて、参考文献を紹介する。

《授業外学習》

障害児保育への興味をもち、授業中に紹介した文献や障害児に関わる新聞報道へ注目するなど、授業中にとりあげたテーマについて理解を深める努力をしてください。

《学習状況・理解度の確認》

毎回manabaを使用した「学びの振り返り」を行い、次回授業開始時に講評。必要に応じて小テストや課題を実施し、コメントを返す。オフィスアワーや授業の前後での質問に応じる。定期考査では、基本的知識と事例による授業方法を考査総合的かつ確認する

《備考》

担当者は早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の難聴幼児早期療育教室で勤務歴のある実務経験者

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	障害の概念と障害児保育の歴史の変遷を理解し、障害児保育を支える理念を理解している。
		障害についての知識があり、保育における発達の援助の概要を理解している。
		子どもが仲間のなかで育つことへの視点を持ち、インクルーシブな保育・教育について理解をしている。
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	関係機関との連携、家庭への支援や連携についての概要を理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	10
授業内課題	20
その他(振り返り課題)	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション/特別支援教育の概要	ノーマライゼーション、インクルージョン、合理的配慮など概要を通して、、『障害』や『特別支援きょういく』の理念について理解を深める	障害への自らの認識を振り返る	45
2	特別支援教育の理解①障害児保育の歴史の変遷	障害児保育の歴史の変遷を理解したうえで、障害のある子どもに対する支援と教育における保育施設の役割について学ぶ	テキスト1章、2章の通読	45
3	特別支援教育の理解②インクルーシブ保育	インクルーシブな視点とはなにか、障害児保育が担う役割やインクルーシブ保育・教育にかかわる理念や仕組みを学ぶ。	テキスト1章、2章の通読	45
4	子ども理解と個別支援	アセスメントの手法の理解。アセスメントの重要性と個別支援の計画	授業配布資料の通読、テキスト	45
5	保育の専門性と専門機関との連携	障害児支援において乳幼児教育が果たす役割について。障害児支援の専門機関の理解	テキスト4章の通読	45
6	保護者との連携・家庭支援	保護者の心理面への配慮、家庭支援の考え方について学ぶ、保護者との連携のあり方について考える	テキスト5章の通読	45
7	障害児の理解と援助①知的障害	知的障害の特性を理解し、dその特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト8章の通読	45
8	障害児の理解と援助②自閉症スペクトラム障害	自閉症スペクトラム障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト8章の通読	45
9	障害児の理解と援助③ADHD	ADHDの特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト9章の通読	45
10	障害児の理解と援助④発達障害全般、支援の基本姿勢	発達障害に特有の特性を理解し、保育の基本姿勢について考える	配布資料の通読	45
11	障害児の理解と援助⑤教材づくり	発達障害の子どもの特性に合った支援方法である「構造化」に基づいて教材を製作する	教材の立案	45
12	障害児の理解と援助⑥言語障害	言語障害など言葉に配慮が必要な子どもの理解とその特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト9章、言語障害などの	45
13	障害理解教育①クラス全体の取り組み	園における協力体制の構築の方法・連携の意義について学び、園内における事例検討による協働のプロセスについても理解をする	支援体制についての資料を通読	45
14	障害理解教育②障害以外の特別支援が必要な事例研究	障害以外の特別支援が必要な事例を通して、合理的配慮の本質について考え、教師・保育者の役割について考える	事例検討についての資料の通読	45
15	学修のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を確認するための学修のまとめ(60分)を行い、解説(30分)によって理解を深める	これまでの授業内容を復習	90

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育B			科目ナンバリング	C3032SZH054
担当者氏名	杉田 律子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 3年・Ⅱ期

《授業の概要》

障害特性や個別のニーズに合わせた配慮や教育の方法について学び、インクルーシブ保育について理解を深める。乳幼児教育に携わる専門職として理解しておくべき知識と技術（『特別支援教育A』で取り上げていなかった分野を中心に）を学び、事例を通して具体的な支援方法について考える力を養う。他機関との連携や家庭への支援・連携、保育にかかわる協働についても学び、子どもをともに育てることへの意義と方法を理解する。

《テキスト》

『障害児保育—インクルーシブな保育に向けて—』太田俊己編著、青踏社、2022

《参考図書》

授業内に随時紹介

《授業外学習》

グループごとにテーマを設定し、グループ研究を行うアクティブラーニングの手法を取り入れる。そのため、コンピューター室にてグループ研究の時間を設けるが、授業外においても積極的に文献研究、発表用のスライド作成を行うこと。他者にわかるように説明するプレゼンテーション能力の向上に努めること。

《学習状況・理解度の確認》

毎回manabaを使用した「学びの振り返り」を行い、次回授業開始時に講評。必要に応じて小テストや課題を実施し、コメントを返す。オフィスアワーや授業の前後での質問に応じる。定期考査では、基本的な知識と事例から支援方法を考え総合的な力を確認する。

《備考》

必要に応じてアクティブラーニングゾーンおよびPCルームを使用してグループ研究を行うため、積極的に自主学習に取り組むことを期待する。担当者は難聴乳幼児通園施設にて勤務経験のある実務経験者。アクティブラーニング、PCルームの活用を促す。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	特別支援を必要とする幼児、障害の特性および心身の発達を理解する。
○ 2-1 自ら課題を発見しようとする力	特別支援を必要とする幼児の課題を理解する。
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	特別支援を必要とする幼児の課題を理解し、支援の方法を理解する。
	子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解できる。家族への支援について考えることができる。
	外国籍の子ども、家庭養護に問題がある子どもなど教育的ニーズのある幼児の困難さとその対応を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	30
その他（振り返り課題）	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	特別支援教育の再考①グループ学習	『特別支援教育A』で学んだインクルーシブ保育や特別支援教育の意義の再考し、理解を深めるため、グループごとにノーマライゼーション、	テキスト1、2章の通読	60
2	特別支援教育の再考②グループ学習と発表・評価	講義(1)で作成したスライドを発表、互いに評価を行い合う中で、インクルージョンについての理解を深める。アクティブラーニング	発表スライドづくり	60
3	保育施設内の支援体制づくり①	園における協力体制の構築の方法・連携の意義について学び、園内における事例検討による協働のプロセスについても理解をする	テキスト6章の通読	45
4	保育施設内の支援体制づくり②個別の教育支援計画	特別支援教育に関する教育課程、個別の指導計画及び個別の教育支援計画について	テキスト6章の通読。学習のま	45
5	発達障害の理解と援助①グループ活動	『特別支援教育A』で学んだ発達障害をさらに理解するため、グループごとに障害の特性や基本的な支援の方法についての説明スライドを作成。	テキストの通読	60
6	発達障害の理解と援助②グループ学習と発表・評価	講義(5)で作成したスライドを発表、互いに評価を行い合う中で、インクルージョンについて発達障害の子どもの特性と支援の方法の理解を深め	発表スライドづくり	60
7	障害児の理解と援助①肢体不自由	肢体不自由などの障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト10章の通読	45
8	障害児の理解と援助②病弱、アレルギーなど	病弱、アレルギー、心疾患などの特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	テキスト10章の通読	45
9	保健・医療機関との連携	医療的な支援の基礎的事項を理解し、医療機関での保育の取り組みについて学ぶ。病棟保育	配布資料の通読	45
10	障害児の理解と援助③視覚障害	視覚障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	各グループ調査、スライド作成	60
11	障害児の理解と援助④聴覚障害	聴覚障害の特性を理解し、その特性に合った子どもへの援助について学ぶ	各グループ調査、スライド作成	60
12	福祉機関との連携①グループ学習	社会福祉機関など地域の資源を活用した支援の方法について学ぶ。児童虐待、貧困、外国籍の子どもの問題など、障害以外の特別支援が必要な	テキスト12章の通読	60
13	福祉機関との連携②グループ学習と発表・評価	講義(12)で学んだ障害以外の特別支援が必要な子どもの問題をさらに理解するため、グループごとにその問題の概要や基本的な支援の方法に	スライド・発表原稿の作成	60
14	就学への支援・小学校との連携	障害のある子どもの就学に関する諸問題、保護者支援について理解する。小学校および特別支援学校等との連携について学ぶ。乳幼児教育の	テキスト15章の通読	60
15	学修のまとめ	1～14講の学習内容についての理解度を評価するため学習の振り返りを行い、その後の解説により理解を深める。	学習のまとめプリント	60

《専門教育科目》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		科目ナンバリング	C3032SYH056
担当者氏名	福田 規秀, 藤原 照美, 三浦 摩美, 山村 けい子, 足立 法子, 三宅 美由紀, 藤本 若菜, 高井 翔海		担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選
			開講年次・開講期	3 年 ・ II 期

《授業の概要》

教師・保育者として身につけておくべき①使命感や責任感、教育的愛情や職業的倫理観に関する事項②社会性や対人関係能力に関する事項③幼児理解や学級経営、さらに職員間の協働や関係機関との連携に関する事項④保育内容等の指導力に関する事項⑤家庭支援等に関する事項について、教育委員会や幼稚園・保育所・認定こども園等から講師を招聘しての講義や、テーマを設定したロールプレイング、グループ討論、成果発表等を通して学ぶ。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省, フレーベル館、『保育所保育指針解説』厚生労働省, フレーベル館、『幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府, フレーベル館

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業外学習》

教職課程の総括として行う演習であるため、履修前に各グループ担当教員の面談を行い、履修カルテを手掛かりにして、自分の学びを振り返り自身の課題を発見する。自身が不足している知識・技術を補う努力が必要である。講義ごとの課題に沿ったレポートを、個人またグループごとに作成し、その内容をもとにグループ討論を行う。討論を通して評価を行うための知識を深める。

《学習状況・理解度の確認》

オフィスアワーや講義の前後を活用して、質問を受け付ける。講義課題に沿ったレポート課題については、できる限り添削し、コメントをつけて返却する。

《備考》

グループ討議等積極的に参加すること。履修カルテの活用により自らの学びの振り返りをして下さい。

Exercise for Early Childhood Care and Education

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	自己主張をしながらも、相手の立場を思いやり、相手の意見を否定しないコミュニケーション力を身に付ける。
◎ 3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	グループ討論や課題発表を通して、保育者として必要な知識と技術を確認し、今後の課題を考える。
	課題に対して自宅学習を行いその成果をグループ間の意見交換の場で発表する反転学習に対して積極的に取り組む。
	自宅学習を含むグループ活動に対する自己評価を通して、自己を客観的に捉え、今後の課題を考える。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	45
発表・実技	0
授業内課題	45
その他(課題への取組)	10
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	兵庫大学短期大学の建学の精神と保育科教育科目の再確認をする。講義の進め方を理解し、履修カルテの手直しを行う。	キャンパスガイドの通読	45
2	使命感や責任感、職業的倫理観に関する事項(1)	学び①使命感や責任感、教育的愛情や職業的倫理観、人権の尊重に関する事項についての講義。(教育委員会からの講師招聘を予定)	講義レポートの作成	45
3	使命感や責任感、職業的倫理観に関する事項(2)	講義(2)講演の内容を受けて、KJ法を用いたグループ討論を行い、保育の本質と保育者としての資質について理解を深める。	グループ活動レポートの作成	45
4	使命感や責任感、職業的倫理観に関する事項(3)	講義(3)の内容を受けて、保育者の使命感、教育的愛情、職業的倫理観、人権意識に関する事項の演習を通して理解を深める。	グループ活動レポートの作成	45
5	保育者の社会性や対人関係能力に関する事項(1)	学び②社会性や対人関係能力について、ストレス耐性のチェック、グループ討論を通して、自分の行動特性を理解し、対処を考える。	行動特性のレポートを作成	45
6	保育者の社会性や対人関係能力に関する事項(2)	他者との問題解決方法を事例を通して考える。トラブル場面を事例とするロールプレイング等を通して対処方法を学ぶ。	グループ活動レポートの作成	45
7	学級経営、職員間の協働や関係機関との連携(1)	学び③幼児理解や学級経営、さらに職員間の協働や関係機関との連携に関する事項についての講義。(附属幼稚園から講師招聘を予定)	講義レポートの作成	45
8	学級経営、職員間の協働や関係機関との連携(2)	講義(7)を受けて、事例を基にしたグループ討論を行い、幼児理解と学級運営についての理解を深める。	グループ活動レポートの作成	45
9	学級経営、職員間の協働や関係機関との連携(3)	事例を基にしたグループ討論や実際に保育記録を作成することで、職員間の協働や関係機関との連携の方法について理解を深める。	グループ活動レポートの作成	45
10	保育内容等の指導力(1)	学び④保育内容等の指導力に関する事項についての講義。(保育所から講師招聘を予定)	講義レポートの作成	45
11	保育内容等の指導力(2)	講義(10)講演の内容をうけて、保育内容の指導力の大切さ、専門性向上のための試みについて、グループ討論を通して理解を深める。	グループ活動レポートの作成	45
12	保育内容等の指導力(3)	保育内容の指導力について、ねらい、内容、方法、評価について理解を深める。グループ毎に遊びを計画し、実際に「遊び」を体験する。	グループ活動レポートの作成	45
13	保育内容等の指導力(4)	保育内容のねらい、内容、方法、評価について理解を深め、グループ毎に計画した「遊び」を体験する。ポートフォリオを作成する。	グループ活動レポートの作成	45
14	家庭支援等に関する事項	学び⑤家庭支援等に関する事項について、特別支援の必要な事例を通してのグループ討論を行い、その支援の在り方について考える。	グループ活動レポートの作成	45
15	学修のまとめ	1~14週の学習を振り返ってレポートを作成し、全体講評(質疑応答を含む)により、自己成長を確認する。	学修レポートの作成	45

《専門教育科目》

科目名	保育内容・環境			科目ナンバリング	C3021SYH046
担当者氏名	中村 一美			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2年・I期

《授業の概要》

現代の乳幼児期を取り巻く環境やその関わりについて専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。環境を通して乳幼児の発達に即した深い学びが実現する過程を保育所、幼稚園、認定こども園等の実践事例を通して学ぶ。もの・人・自然・社会などの環境や環境の構成について興味関心を深めていき、領域「環境」に関わる指導場面を想定し、保育内容を構想する力や指導方法を身に付ける。

《授業外学習》

幼児教育は「環境を通して行う教育」が基本である。環境に対する豊かな感受性が育まれるように、特に自然環境、またその他身の回りの環境にたえず関心をもち、領域「環境」への学びを深める。

《テキスト》

『保育内容 環境』小田豊・湯川秀樹 編著 北大路書房
『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び各要領解説書

《学習状況・理解度の確認》

身近な環境に興味関心が広がるように課題学修を実施する。実践事例を通して、ディスカッションやグループワークをし、他の学生の意見を聞いたり発表したりする中で考えを深めていく。

《参考図書》

『保育内容 環境』柴崎正行・若月芳浩編 ミネルヴァ書房
『事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 萌文書林

《備考》

- ・現代の乳幼児を取り巻く環境に興味関心をもち、日頃から情報収集に努める。
- ・担当者は園長経験のある実務経験者

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	社会は様々の人で構成されている(人種・男女・性格・大人・子どもなど)保育は他者の理解から始まることを学ぶ。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育士とは育児の専門家であり、その為の基礎的知識や技術を身に付け実践の場で生かすことができるようになる。
○	3-2 自らの実践を振り返り、自己を高めようとする力	育児の専門家として、実践を何度も繰り返し習熟をし、自己の力を高めていく。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	0
その他(授業態度)	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	授業概要、授業の目標、授業方法 評価方法などの説明	「身近な環境」について考える	45
2	「環境」の意義	領域「環境」の理解を深める。「環境を通して行う保育」の意義について学ぶ	第1章「環境」の意義	45
3	乳幼児の発達と理解	乳幼児の発達と環境の関わりを発達の特性から読み取り、「環境にかかわる力」を育てるために必要な保育者の援助を考える	第2章「環境」と幼児理解	45
4	好奇心・探求心	好奇心・探求心を育む保育の特性を知り、環境構成・援助の在り方を学修する	第3章 好奇心・探求心	45
5	思考力の芽生え	乳幼児の思考力の芽生え、広がりや深まりについて、「環境」との関係性や保育者の援助の在り方を学ぶ	第4章 思考力の芽生え	45
6	人的環境とは	人的環境の保育的特性を知り、発達段階に応じた環境の在り方を学ぶ	第5章 人的環境	45
7	物的環境とは	物的環境とは何かを知り、乳幼児の育ちにつながるふさわしい環境について学修する。	第6章 物的環境	45
8	自然環境とは	自然環境が及ぼす乳幼児の育ちを考える。自然環境を活用した実践事例を通してその意義を理解する	第7章 自然環境	45
9	日常生活の中での興味や関心	乳幼児の生活の中で物事の法則性に気づく場面やその他興味・関心をもつ場面について知り、指導の在り方を学ぶ	第8章 1, 2, 3節	45
10	日常生活における暮らし・文化	日本の伝統文化・異文化について調べる。グループワークを通して学びを深める	第8章 4, 5節	45
11	テーマに沿った指導計画の作成	保育場面を想定した指導計画の作成。指導計画作成上の留意点を学ぶ	指導計画の作成	45
12	地域・行事との関り	行事は子どもにとって「発達」の節目となるもの、その在り方や参加の仕方を考える	第9章 地域・行事との関り	45
13	道徳性の芽生え	道徳の概念、道徳性を育む保育や保育者に必要な倫理観について考える	第10章 道徳性の芽生え	45
14	乳幼児期の安全環境	実践事例からみた安全環境、安全教育・防災教育を学ぶ 危機管理能力を身に付けるための意識を高める	第11章 乳幼児の安全環境	45
15	学修の振り返りと確認	学修の振り返り 全体講評(質疑応答等)	第12章 学修の振り返り	90

《専門教育科目》

科目名	保育内容・健康			科目ナンバリング	C3021SYH044
担当者氏名	森田 恵子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期

《授業の概要》

領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達や基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等の専門的事項についての知識や技能を身につける。幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発育・発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

《テキスト》

『実践例から学びを深める保育内容領域健康指導法』清水将之 相楽真樹子編著 わかば社 2022年

《参考図書》

『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018
『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 2018

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	社会は多様な人種・性格・男女・個性、価値観などで構成されている。多様性の理解から始まる。
○	2-2 自ら課題を解決しようとする力	他者の理解と共に自己の考え、人間性なりを表現できることの大切さを学ぶ。
○	3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	保育の分野の基礎的理解や技術が必要不可欠であり、実際の保育現場で発揮できる力を培うことを理解する。

《授業外学習》

テキストを範囲指定した所や配布資料は必ず通読をしてくる。健康的な基本的な生活に関心を持ち、指定した語句や項目について調べてくる。保育施設等に出向き、地域近隣における乳幼児の行動や遊びの内容、人との関わり等の様子を観察する。

《学習状況・理解度の確認》

課題提出はその内容の理解ができているか確認する。分からないことは毎授業終了時などで質問を受けつける。

《備考》

学生と応答的關係で授業を展開し、一人一人の学習意欲を高める。クラスの一員である自覚のもと、協調的な受講態度を期待する。グループワークやディスカッションによる授業もある。幼稚園教諭として幼稚園勤務のキャリアアップ経験者による

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	20
その他(授業態度)	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 子どもの健康と環境	授業概要、授業方法、評価方法などの説明 健康に関する世界の流れや人間の権利と健康について学ぶ。	テキスト通読 p. 8～p. 12	45
2	保育内容・領域「健康」	保育内容の全体構成と領域「健康」を理解する	テキスト通読 p. 16～p. 24	45
3	保育内容・領域「健康」の展開	乳児・1歳以上3歳未満児、3歳以上児における領域「健康」の展開について理解する	テキスト通読 p. 30～p. 43	45
4	保育の過程	保育の過程、保育の計画、指導計画の作成について理解する	テキスト通読 p. 44～p. 52	60
5	乳児(0歳児)の実践	乳児(0歳児)の心地よい生活、遊びへのかかわり等の実践を学ぶ	テキスト通読 p. 54～p. 61	45
6	1歳以上3歳未満児の実践	1歳以上3歳未満児の生活リズム、全身を使った遊びのかかわりについて学ぶ。	テキスト通読 p. 62～p. 69	45
7	基本的な生活習慣を身につける実践	園生活、食、清潔に関するかかわりについて学ぶ。	テキスト通読 p. 70～p. 78	45
8	さまざまな遊びの実践	運動遊びや群れ遊びの重要性を理解する。	テキスト通読 p. 80～p. 95	45
9	環境とかかわりながら遊ぶ実践	環境とかかわって遊ぶことの重要性について理解する。	テキスト通読 p. 98～p. 110	45
10	指導計画の作成	指導案作成の考え方とポイント、活動内容や環境構成を学ぶ。	テキスト通読 p. 44～p. 51	45
11	模擬保育と評価	模擬保育の振り返り、保育の課題について学ぶ。	模擬保育準備・評価	60
12	子どもの事故や病気	事故や病気等の対応、大きな事故や小さな事故の対応について理解する。	テキスト通読 p. 120～p. 128	45
13	感染症の予防と対応	保育における感染症の予防と対応について学ぶ。	資料	45
14	安全教育と保健計画	保育における安全教育と安全管理について学ぶ。	テキスト通読 p. 120～p. 126	45
15	子どもの健康の今後の課題と展望	学修のまとめ	全体的な学修の振り返り	90

《専門教育科目》

科目名	保育内容・言葉	科目ナンバリング	C3012SYH047
担当者氏名	藤井 恵子	担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

言葉の機能と、乳幼児期の言葉の獲得のプロセスを学ぶ。乳幼児は、日常生活の中で、人との関わりを通して言葉を獲得していく。また、言葉を使って物を認識し、想像力や創造力が育つ。その指導方法や、子どもの「言葉」の引き出し方について具体的に学ぶ。視聴覚教材等ICTを活用した授業を展開する。

《授業外学習》

子どもと関わる機会を作り、乳幼児期の子どもの「言葉」について興味を持ち、「言葉」の発達について理解を深めるように意識する。より多くの絵本に触れ、絵本のレポーターを増やす。

《テキスト》

『新・保育と言葉』石上浩美編 嵯峨野書院 2022年

《学習状況・理解度の確認》

分からないことがあれば、授業終了後に質問を受け付ける。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2018年 他
適宜、授業内で紹介する。

《備考》

保育実践教室で授業を実施する場合もある。
グループワークやディスカッションを行う。
担当者は、園長経験のある実務経験者。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。
◎ 1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、子どもの発達の姿と合わせて説明できる。
○ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	子どもの発達における児童文化財の意義について理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	0
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	0
その他()	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	領域「言葉」のねらいと内容とは 絵本の読み聞かせの意義について学ぶ。	テキスト通読	45
2	保育の基本と言葉の獲得に関する領域「言葉」	保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。	テキスト通読	45
3	乳児期の言葉の発達	乳児期の「言葉」の発達段階と他者とのかかわりを知る。 乳児向けの絵本について学ぶ。	テキスト通読	45
4	幼児期の言葉の発達①	幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びの中の「言葉」を理解する。	テキスト通読	45
5	幼児期の言葉の発達②	話し言葉から書き言葉の獲得にプロセスについて学ぶ。□	テキスト通読	45
6	手段・道具としての言葉□	言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。 オノマトペや動きを誘発する言葉の具体例について学ぶ。	テキスト通読	45
7	言葉の獲得に関する領域 ① 「言葉」と他領域との関係	身体機能の発達と「言葉」について学ぶ。 知覚・認知機能の発達と「言葉」について学ぶ。	テキスト通読	45
8	言葉の獲得に関する領域 ② 「言葉」と他領域との関係	人間関係の発達と「言葉」について学ぶ。 世界環境の発達と「言葉」について学ぶ。	指導計画立案	45
9	言葉の獲得に関する領域 「言葉」の指導計画と評価	指導計画の種類や内容について理解し、指導計画を立案する。	指導計画加筆修正	45
10	言葉の遅れのある子どもに対する「言葉」の支援	言葉の遅れについて考える。 発達障害のある子どもに対する特別支援教育について学ぶ。	テキスト通読	45
11	「言葉」の世界を広げる児童文化財□	絵本・物語・紙芝居等の児童文化財の意義について学び、子どもに伝える際の留意点について知る。	テキスト通読	45
12	これからの幼児教育の課題と保育内容領域「言葉」	保育・教育環境の現状と課題及び幼・保・小一体化に向けた取り組みについて知る。	テキスト通読	45
13	創作絵本発表会①	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせの保育実践を行う。	創作絵本の読み聞かせ練習	45
14	創作絵本発表会②	自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせの保育実践を行う。	創作絵本の読み聞かせ練習	45
15	学習のまとめと振り返り	授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する。	授業内容の整理	45

《専門教育科目》

科目名	保育内容・人間関係			科目ナンバリング	C3022SYH045
担当者氏名	山村 けい子			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・選	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期

《授業の概要》

乳幼児は子どもの人間関係の基礎を作る重要な時期であり、その多くは、人との関わりの中で培われていく。「生きる力」の基礎は、こども自身の「人間関係」や子どもを取り巻く「人間関係」の中で自分からつかみとったり、教えられたりすることによって身につけていくものである。乳幼児の様々な姿、活動から行動を分析し、心を読み取り、より良い援助ができる力をつけ、保育者が重要な役割を担う事の理解を深める。

《テキスト》

濱名浩編著『保育内容 人間関係[第2版]』（2018）みらい社
文部科学省『幼稚園教育要領』（2018）厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（2018）他

《参考図書》

民秋言・小田豊他著（2019）『保育内容 人間関係』北大路書房
房佐藤真久・阿部治著（2012）『持続可能な開発のための教育ESD入門』筑波書房
松岡広路著『生涯学習の探究』学文社他

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 多様な他者を理解しようとする力	幼稚園教育要領、保育所保育指針、等の解説を熟読し理解する。乳幼児の良き支援者になるために積極的に関わる。
○	2-1 自ら課題を発見しようとする力	様々な子どもの姿、事例から保育者としての言葉がけ、支援、援助を学び、課題を見つける。
○	2-2 自ら課題を解決しようとする力	高齢者を始め地域の人々、多文化など自分の生活に関係の深いいろいろな人を理解し、課題に対して向き合う。

《授業外学習》

事前学習として教科書の指定箇所を予習しておく。保育雑誌、新聞等で社会情勢を知り保育者としての資質を高めるようにする。ボランティア活動などに参加をする。PBL学習も取り入れる。

《学習状況・理解度の確認》

グループで話し合い発表をする。・レポートは授業中に一緒に振り返りを行うか、コメントを付して返却する。・学習のまとめの後に振り返りを行い、理解度を確認する。ICT活用（同時双方向）

《備考》

授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止。科目担当者は保育所（保育士）勤務経験のある実務経験者

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	65
小テスト	0
レポート	15
発表・実技	10
授業内課題	5
その他（出欠・授業態度）	5
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「ねらい」「内容」を理解する。PBL学習も取り入れる。	テキスト、保育所保育指針等	45
2	領域「人間関係」のねらいと内容及び配慮事項	未来の社会を生きる子どもたちに求められる幼児教育と「人間関係」、幼児を取り巻く現代課題等を理解する。	テキストp.10～p.39	45
3	子どもの人間関係をめぐる課題と将来像	少子高齢社会における子どもの行方、多様化する家族形態が抱える諸問題と子育て支援について学ぶ。	テキストp.40～p.50	45
4	持続可能な開発のための教育（ESD）多文化保育等	文部科学省による「2030年の社会と子供たちの未来」ユネスコが提唱する「ESD」を学び理解する。	テキストp.48資料等	45
5	子どもの人間関係①ーおおむね0歳から3歳未満ー	愛着と信頼関係の形成、人間関係の発達と情緒の安定、自我の発達を学び、乳児期を理解をする。	テキストp.51～p.73	45
6	子どもの人間関係②ーおおむね3歳以上ー	他者への意識と協同での生活や活動、自律の芽生え、道徳性、規範意識の芽生え等から幼児期を理解する。	テキストp.74～p.87	45
7	遊びと人間関係の発達	乳児、幼児と発達にあわせてふれあい遊び、集団あそび等を調べ、考えて実践をし、説明をすることができる。（指導案作成・模擬保育）	テキストp.86～p.92	45
8	保育者に求められるもの	「育ての心」、「共に育ち育て合う心」、専門性としての実践思考、人間関係を育てる実践の原理を学ぶ。	テキストp.93～p.107	45
9	保育者に求められる援助の視点①ー自立に向けてー	年齢別にみる援助の視点、共振的関係の構築、遊びや活動をやり遂げる（合意形成）について学ぶ。	テキストp.113～p.135	45
10	保育者に求められる援助の視点②ー協同に向けてー	友だちと共感する、協同する経験、規範意識、非認知能力等を学ぶ、地域の人々との関わりを理解する。PBL学習	テキストp.136～p.171	45
11	保育場面での気になる子どもへのかかわり	子どもの多様さ、障害児、ジェンダー、多様な文化的背景を持つ乳幼児の保育等を理解する。	テキストp.172～p.181	45
12	親の思いと家庭とのかかわりー子育て支援の視点からー	親の思いを理解しつつ共に子どもを育てていくにはどのような観点で、どう取り組んでいったよいか、という視点を理解する。	テキストp.182～p.197	45
13	地域子育て支援とは何か	人間関係の育ちを図る地域子育て支援の実際と人間関係の育ちを図る地域子育て支援の担い手で期待される役割を説明することができる。	参考図書・資料	45
14	これからの地域子育て支援ー支援から協働へー	これからの地域子育て支援の「支援」から「協働」について理解する。PBL学習。	参考図書・資料	45
15	学修のまとめ	学修の振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。得られた学習内容と知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。	参考図書・資料	60

《専門教育科目》

科目名	保育内容・表現	科目ナンバリング	C1012SYH066
担当者氏名	永井 夕起子, 満田 知美, 高井 翔海	担当形態	複担
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

領域「表現」のねらいや内容を踏まえて音楽、造形、言語、身体などの表現領域を総合的に学びながら、その指導法を修得し、保育の実践力へとつなげます。また、諸感覚を通じた様々な表現活動を体験するなかで、表現することの喜びを味わうとともに、感性を磨き、表現力を向上させることを目的とします。

《授業外学習》

○日ごろから、耳を澄ましたり、じっくり見たり、身の回りの事象に対して感覚をひらき、感じ取るように心がけましょう。
○様々なジャンルのアートに触れ、楽しむことを心がけましょう。
○絵本や童話を読んで、想像力を働かせ、ファンタジーの世界を楽しみましょう。

《テキスト》

池田裕恵・猪崎弥生編著『保育内容 表現 ― からだで感じる・表す・伝える』杏林書院、2019

《学習状況・理解度の確認》

・授業毎に振り返り課題があります。
・課題や提出物にはコメントを付して返却します。

《参考図書》

『幼稚園教育要領』文部科学省、2017
『保育所保育指針』厚生労働省、2017
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』文部科学省、2017

《備考》

・教室や場所を変更して行うことがあります。授業前にはmanaba等で確認してください。
・体験的な学びが多くありますので、積極的な取り組みを期待します。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	様々な表現活動において、感性を働かせながら、自分なりの表現の工夫をすることができる
◎ 3-1 専門的知識や技術を習得し、活用しようとする力	総合的な表現活動の内容とその指導方法について理解し、発表することができる
○ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	その人なりのイメージや思い、表現方法があることを理解し、それらを尊重することができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	50
授業内課題	50
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	領域「表現」のねらいと内容	領域「表現」のねらいと内容について、子どもの表現として理解する。	「表現」のねらいを理解する	45
2	音集めと身体表現	身の回りにある物から音を集める。身体表現遊びへの展開を考える。	身体的・感覚的視点について学	45
3	物語と身体表現	絵本のことばからオリジナルのムーブメントを創作して遊ぶ展開を考える。	実践の内容を考える	45
4	素材と身体表現	生活廃材でモチーフを作る。身体表現遊びへの展開を考える。	実践を振り返る	45
5	子どもの音楽表現について	人ほどのように音楽を覚えるのか考え、乳幼児期における音楽表現について知識を深める。	音や声・音楽的視点について学	45
6	日常生活の音環境について	日常生活の音環境について考える。サウンドスケープによる音探しを実施、表現方法について学ぶ。	実践の内容を考える	45
7	リズム遊び	身体表現を含んだ音楽活動を考える。目的や、活動の短期的、長期的な組み立て方を考え、実践方法について学ぶ。	実践を振り返る	45
8	錯画期としての造形表現	体験が生む描画・造形 3歳児未満の造形表現について学ぶ。	造形的な視点について学ぶ	45
9	象徴期としての造形表現	体験が生む描画・造形 4歳児の造形表現について学ぶ。	実践の内容を考える	45
10	図式期としての造形表現	体験が生む描画・造形 5歳児の造形表現について学ぶ。	実践を振り返る	45
11	総合的な表現活動を考える①	総合的な表現活動を実践するために、指導案を作成する	指導案の構想を練る	45
12	総合的な表現活動を考える②	指導案に沿って、教材研究を深める	教材研究を進める	45
13	総合的な表現活動を考える③	総合的な表現活動を指導案に沿って実践するとともに、ICTを活用して受講者全員がそれぞれの実践を共有することで振り返りを行う	実践の内容を考える	45
14	総合的な表現活動を考える④	総合的な表現活動の振り返りを通して、指導案の改善や展開を考える	実践を振り返る	45
15	振り返りとまとめ	これまで学んだことの振り返りを通して、保育の現場における表現活動についてまとめる	これ編までの実践を振り返る	45

《専門教育科目》

科目名	保育内容総論			科目ナンバリング	C1011SYH043
担当者氏名	日坂 歩都恵			担当形態	クラス分け
授業方法	演習	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期

《授業の概要》

保育所や幼稚園等での生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解する。
 具体的な子どもの姿と関連づけながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付ける。
 現在の保育の課題を探り、今後、見通した保育の実践する力を養う。

《授業外学習》

○体験を通して、保育実践のあり方を理解する。
 ○授業で学んだことを振り返り、まとめておく。
 ○保育に関する専門図書や雑誌等に関心を持ち、多くの書物を読む。

《テキスト》

小川圭子、日坂歩都恵、小林みどり『保育内容総論』みらい2021年

《学習状況・理解度の確認》

レポート等の課題は提出、返却し、学生の理解度を確認する。

《参考図書》

文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2018年、厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2018年

《備考》

○一人一人が主体的に授業に参加し学習してほしい。保育に役立つ演習や講義を中心に進める。科目担当者は、幼稚園教諭経験のある実務経験者である。Theory of Childcare Contents

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	1-2 自己を分かりやすく表現しようとする力	生活・遊びの中の学びについて具体的事例や演習を通して理解し、表現することができる。
◎	2-1 自ら課題を発見しようとする力	保育をめぐる諸課題を察知し、情報を収集し、解決に導こうとする。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	20
その他()	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育・保育の基本の理解	教育・保育の基本と保育内容について学ぶ。	テキストp.2～p.9通読	45
2	子どもの発達と理解	子どもの発達や乳幼児期に育みたい資質・能力について学ぶ。	テキストp.10～p.20通読	60
3	5領域と保育内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された5領域について理解する。	テキストp.21～p.30通読	60
4	環境を通して行う保育	子どもの取り巻く環境や保育にふさわしい環境の構成について理解する。	テキストp.32～p.41通読	60
5	生活や遊びと保育内容	生活や遊びの中で何が育つのか考え理解する。	テキストp.42～p.51通読	60
6	保育の計画と評価	保育の計画と評価について学ぶ。	テキストp.52～p.64通読	60
7	0歳児の保育内容	0歳児の発達の特徴と保育者の役割について理解する。	テキストp.66～p.76通読	60
8	1・2歳児の保育内容	1・2歳児の発達の特性に応じて生活の遊びの展開と保育者の援助について学ぶ。	テキストp.77～p.98通読	60
9	3・4・5歳児の保育内容	3・4・5歳児の発達の特性を概観し、保育内容について理解する。	テキストp.88～p.98通読	60
10	小学校との連携と保育内容	小学校教育との接続にあたっての留意事項について理解する。	テキストp.99～p.108通読	60
11	子育て支援と保育内容	子育て支援の役割・実態と課題について学ぶ。	テキストp.110～p.120通読	60
12	安心・安全に関する保育内容	子どもの生命と心の安定を保ち、健やかな生活が確立されるための配慮事項について学ぶ。	テキストp.121～p.132通読	60
13	保育内容の課題と展望	子どもが相互に多様性を認め合い、生きる力を身につけるための保育内容について学ぶ。	テキストp.134～p.143通読	60
14	保育内容の歴史の変遷	保育内容の歴史をみながら、保育内容の意義とあり方を理解する。	テキストp.144～p.152通読	60
15	諸外国の保育内容	諸外国の保育内容と子ども観、子育て観、教育・保育制度について学ぶ。	テキストp.153～p.161通読	60

《専門教育科目》

科目名	保育方法論	科目ナンバリング	C3012SYh050
担当者氏名	福田 規秀	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

子ども理解を基礎として、資質・能力を意識した子どもの自由な活動を援助する保育方法の在り方について、討論を交えながら講義していく。環境を整えて保育を実践し、その反省・評価を適切にできる知識や技術を身に付けられるよう、現場映像等のメディア視聴をはじめ、遊具体験（毎回授業はじめに行なう）、計画立案、事例検討等を交えた授業を行なう。

《授業外学習》

次回講義の予告を行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。メモ等に基づき、講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。適宜自習内容を言うので真面目に取り組むこと（実習で出会った遊具についてのレポートや保育実践を見ての感想、メディアを駆使した保育教材の探求等）。

《テキスト》

『幼児教育方法論』（学文社 2019）
『幼稚園教育要領解説』（文部科学省 2018）

《学習状況・理解度の確認》

分からないことは、オフィスアワー等を利用して、聞きに来ること。提出課題、筆記試験については、講義内で講評を行う。

《参考図書》

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府 文部科学省 厚生労働省 2018）『保育所保育指針解説』（厚生労働省 2018） その他授業中に適宜紹介する。

《備考》

子どもとメディアについて柔軟に対応。講義に持参した遊具等は積極的に触る。グループワークへの積極的な参加、適切な出席・受講態度・事前準備・レポート提出等を心掛ける。英語名 (Methodology of ...)

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-1 多様な他者を理解しようとする力	子どもの特性を理解し、その成長・発達にふさわしい経験・体験を考えることができる。 主体的な子どもの活動を引き出すには、教師の計画が重要であることを理解している。
○ 2-2 自ら課題を解決しようとする力	生きる力の基礎を培うために掲げられた資質・能力を適切に育む保育の方法について、真剣に考えることができる。 保育を行う上で道具立て（情報機器を含む）の重要性を理解し、それを活用する基礎を身に付けている。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	70
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他（授業の振り返り課題）	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション 保育方法とは	①本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認 ①特別な方法があるわけではない	シラバスの熟読 教科書の購入	60
2	保育方法の理念と概念	①資質・能力の意識②自らの保育観・子ども観の意識③道具立て	点検レポートへの取り組み	60
3	保育方法の歴史（戦後）	①保育要領から現在まで②不確定な時代に向けて	点検レポートへの取り組み	60
4	幼稚園教育要領等における教育・保育方法	①現在の要領等が目指すもの②資質・能力と10の姿	点検レポートへの取り組み	60
5	子どもの理解と保育方法	①子どもの内面理解②保育事例から読み取れるもの	点検レポートへの取り組み	60
6	環境を通しての保育	①様々な体験へ②豊かな体験を保障する環境構成	点検レポートへの取り組み	60
7	遊びを通しての保育	①様々な表現の理解②様々な工夫の理解	点検レポートへの取り組み	60
8	幼児の主体的な生活と保育	①学びに向かう子どもの援助②意図的・計画的な保育	点検レポートへの取り組み	60
9	様々な保育形態	①自由保育VS一斉保育？②異年齢・同年齢保育③統合保育④プロジェクトアプローチ	点検レポートへの取り組み	60
10	保育計画の実際	①全体的な計画②指導計画③カリキュラムマネジメント	点検レポートへの取り組み	60
11	計画立案 保育における評価	①指導案の立案 ①記録②カンファレンス③ポートフォリオ他	点検レポートへの取り組み	60
12	保育を活かすメディア	①オールドメディアから最新機器②メディアリテラシー③情報モラル	点検レポートへの取り組み	60
13	保育者の役割、事例検討についてのグループワーク	①望ましい姿の意識②援助者、理解者、モデル③カウンセリングマインド④メディア視聴 ⑤グループワークの実施	点検レポートへの取り組み	60
14	連携活動 諸外国の保育事例	①小学校との連携②家庭や地域との連携 ①レジャ・エミリアでの実践②メディア視聴	点検レポートへの取り組み	60
15	まとめ	①学習の振り返り（確認を含む）②全体講評（質疑応答を含む）	自分の想い、事例対応の総点検	120